

国立国語研究所学術情報リポジトリ

〈全文〉 青森県八戸方言調査報告書：
日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成：
方言の記録と継承による地域文化の再構築

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木部, 暢子, 中川, 奈津子, 菅沼, 健太郎, 岩崎, 真梨子, 寺嶋, 大輔 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003268

国立国語研究所共同研究報告書

日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成
青森県八戸方言調査報告書



中川奈津子・木部暢子 [編]

2021年3月

はじめに

国立国語研究所では、2016年に共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」（人間文化研究機構・機関拠点型基幹研究プロジェクト）と「方言の記録と継承による地域文化の再構築」（人間文化研究機構・広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」）をスタートさせ、各地の方言の収集と記録を行っています。このプロジェクトの前身は、2010年に始まった「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」（2010年～2015年）です。そのときからの調査を含めると、これまで、沖縄県宮古島・久米島、鹿児島県喜界島・与論島・沖永良部島、東京都八丈島、島根県出雲・隠岐の島、宮崎県椎葉村、石川県白山市白峰、愛知県一宮市木曽川、青森県むつ市・八戸市の13の地域で合同調査を行なってきました。本書は、そのうちの青森県八戸市方言調査（2019年8月）の調査報告書です。

調査の折りには、たくさんの方にお世話になりました。お忙しいなか、八戸市鮫地区生活館まで足を運んでくださり、親切に方言を教えてくださいました方々に深く御礼申し上げます。みなさんのおかげで、このような報告書を作成することができました。深く感謝申し上げます。

この報告書の内容は、八戸市方言全体から見ると、ごく一部のわずかなものにすぎませんが、方言の研究や記録・保存の資料として、少しでも多くの方々に使っていただければ幸いです。なお、この報告書は国立国語研究所「危機言語DB」のウェブサイト（<http://kikigengo.ninjal.ac.jp/reports.html>）でも公開しています。こちらもぜひ、ご覧ください。

2021年2月3日

人間文化研究機構 国立国語研究所 木部 暢子

「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」

「方言の記録と継承による地域文化の再構築」

青森県八戸方言調査報告書

目次

はじめに.....	i
概要	1
調査報告	
菅沼健太郎、岩崎真梨子「八戸市方言の名詞アクセントに関する調査報告」	11
菅沼健太郎、岩崎真梨子「八戸市方言の疑問文とその文末音調に関する調査報告」 ..	31
寺嶋大輔「八戸市方言民話資料における文末テンス・アスペクトの分析試論」	47
資料	
文法項目データ集	63

概要

中川 奈津子¹

1. 目的

本報告書は、国立国語研究所が 2019 年 8 月に八戸市鮫町で行った調査の結果を報告する。本調査は、国立国語研究所「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」（機関拠点型基幹研究プロジェクト）および「方言の記録と継承による地域文化の再構築」（人間文化研究機構・広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」）という 2 つのプロジェクトの共同研究として実施された。それぞれのプロジェクトの目的は以下のとおりである。

- 日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成²

いま、世界中のマイナー言語（規模の小さな言語）が消滅の危機に瀕しています。現在、6,000 から 7,000 ある世界の言語のうち、半数がこの 100 年のうちに確実に消滅し、最悪の場合、10 分の 1、20 分の 1 にまで減ると言われています。その背景には、人口の都市集中化により周辺地域の人口が減少してしまったこと、社会的・経済的理由によりマイナー言語を使っていた人々がその言語の使用をやめてしまったこと、災害や紛争により人々が生まれた土地を離れなければならなくなったことなどの状況があります。[...] なぜ、言語が多様になったのか考えてみて下さい。おそらく、各地の言語は地域の自然や人々の生活、ものの考え方などに基づいて、長い時間をかけて形成されていったのだと思われます。それらが消滅するということは、長い歴史の中で醸成された人類の智慧が失われてしまうことを意味します。生物の多様性が地球を豊かにしているのと同じように、言語の多様性は人類を豊かにしているのです。[...] [ユネスコの] 2,500 の消滅危機言語のリストの中には、日本で話されている 8 つの言語—アイヌ語、八丈語、奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語—が含まれています。しかし、消滅が危惧されるのはこれだけではありません。日本各地の伝統的な方言もまた、

¹ なかがわ なつこ：国立国語研究所・特任助教 nakagawanatuko@gmail.com

² <https://www.ninjal.ac.jp/research/project-3/institute/endangered-languages/> (last accessed on 2021/2/2)

消滅の危機にあります。これらを記録し、その価値を訴え、継承活動を支援することがこのプロジェクトの目的です。

- 「方言の記録と継承による地域文化の再構築」³

地域社会の変貌により、地域の貴重な文化資源である方言が急速に衰退しつつある現状に対して、自治体や各地の大学・研究者と連携して地域の方言の記録や方言の継承活動を行うことにより、方言を主軸とする地域文化の再構築の可能性と方言のもつ文化的意義に関する研究を行っています。

国立国語研究所では、2010年から沖縄県宮古島、久米島、鹿児島県喜界島、与論島、沖縄永良部島、八丈島、島根県出雲、宮崎県椎葉、島根県隠岐の島、石川県白峰、愛知県一宮市（旧木曾川町地域）、青森県むつ市などで合同調査を行ってきた。今回の八戸市調査は、むつ市以来、東北地方で2回目の合同調査である。

2. 調査地点について

本調査は青森県八戸市で行われた。八戸市は青森市と並んで青森県の中核市であり、太平洋に面している。東北新幹線の駅もあり、東京駅から新幹線で北上すると青森県に入ってから初めての駅が八戸駅である。「臨海部には大規模な工業港、漁港、商業港が整備され、その背後には工業地帯が形成され」、「優れた漁港施設や背後施設を有する全国屈指の水産都市であり、北東北随一の工業都市となってい」る。⁴ 人口は約23万人、面積は約300km²。⁵ 特に縄文時代の遺跡が多数出土し、有名な合掌土偶は国宝に指定されている。青森市にある三内丸山遺跡と並んで、八戸市にある是川遺跡、風張遺跡などが有名である。中世以降からは南部氏の城下町として栄えた。

今回調査したのは、八戸駅から東へ約10km、太平洋に面した鮫町である（図1参照）。

³ <https://www.ninjal.ac.jp/research/project-3/multidiscipline/reconstruct-community/> (last accessed on 2021/2/2)

⁴ 八戸市ウェブサイト「八戸市の概要」より。
<https://www.city.hachinohe.aomori.jp/gyoseijoho/hachinoheshinoshokai/hachinoheshinoprofile/8147.html> (last accessed on 2021/2/2)

⁵ <https://www.e-stat.go.jp/> (last accessed on 2021/2/2)

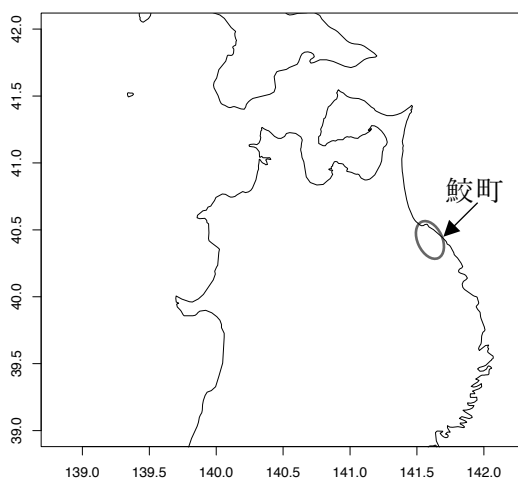


図 1 鮫町の位置

3. 調査について

調査は 2019 年 8 月 27 日、28 日の 2 日間、鮫生活館で行われた。調査内容は以下の通りである。

- 文法項目
 - 格、情報構造
 - 疑問詞
 - アスペクト、テンス
 - ヴォイス
 - 文タイプ
 - 待遇
 - 形容表現、名詞述語
- 基礎語彙、民俗語彙
- 用言の活用

我々に方言を教えてくださいましたのは以下の方々である。調査者らの質問に辛抱強く答えてくださいました。ここに記して感謝する。全員の方が言語形成期を鮫町で過ごされている。

氏 名	生 年
-----	-----

梶谷 里志さん	1949 年
橋本 シメ子さん	1938 年
下村 陽子さん	1948 年
沢田 政広さん	1948 年
三浦 晶子さん	1923 年

調査者とその所属（当時）は以下の通りである。

氏 名	所 属（当時）
木部 暢子	国立国語研究所
青井 隼人	東京外国語大学/国立国語研究所
中川 奈津子	国立国語研究所
中澤 光平	国立国語研究所
ローレンス・ウェイン	オークランド大学
金田 章宏	千葉大学
大槻 知世	東京外国語大学
岩崎 真梨子	八戸工業大学
山口 響史	愛知淑徳大学
高橋 新	東京外国語大学
三宅 俊浩	日本学術振興会 DC / 名古屋大学

また、学生を中心とする公募による参加者は以下である。

氏 名	所 属（当時）
木村 有里	横浜商科大学
櫻井 好基	滋賀大学
菅沼 健太郎	一橋大学
寺嶋 大輔	東北大学
藤原 悠真	東京外国語大学
松岡 葵	九州大学
小川 雅貴	東京大学
春日 悠生	京都大学

4. 表記法について

八戸市方言の表記を以下に示す。必ずしも音韻的弁別性のあるものだけを列挙しているわけではない。

	前	中	後
狭	i	ɨ	u (u)
半狭	e		
半広	ɛ		o
広		a	

表 1 八戸方言の母音

	両唇	歯茎	硬 蓋	口 軟 蓋	口 声門
破裂	p b ~b	t d ~d		k g	
摩擦	ɸ	s z			h
破擦		ts dz	tɕ dʑ	kç	
鼻	m	n		ŋ	
は じ き			r		
接近	w		j		

表 2 八戸方言の子音

母音が鼻音化している場合も、前鼻音化子音 [~b, ~d] と同じく、母音の前に ~ を用いる。促音では子音を重ね、発音は N と表記する。

以上は基本方針であり、独自方針で表記した報告もある。

謝辞

南部弁の普及活動を長年行われている榎谷伸夫氏には、会場のセッティングから調査に協力してくださる方々を探す段階に至るまで、大変お世話になりました。また、ここにお名前を書ききれていない方々からのご助力、応援をいただきました。本当にありがとうございました。

調查報告

八戸市方言の名詞アクセントに関する調査報告

菅沼 健太郎⁶

岩崎 真梨子⁷

1. はじめに

本報告書は青森県八戸市方言の名詞のアクセント体系に関する考察を述べるものである。調査において、我々の班が収集する予定であった基礎語彙は総計 258 語であったが、時間の都合上、内 93 語は Lawrence 班に委託した。以下にデータ収集にご協力いただいた話者の方々の情報を示す。この場を借りて同氏たちに感謝申し上げる。

1. A 氏 1948 年生まれ、男性。我々の班での語彙収集にご協力いただいた。
B 氏 1923 年生まれ、女性。Lawrence 班での語彙収集にご協力いただいた。
両氏はともに言語形成期を青森県八戸市で過ごした方々である。

本報告書では、まず A 氏から得たデータの考察を行い、その後 B 氏から得たデータの考察を行う。なお、我々の調査した語彙は植物、食物、動物などの名詞が主であった。よって本報告書は名詞のアクセントに関するものとなる。また、我々が A 氏の協力の下調査した語彙は 165 語、Lawrence 班に委託したものが 93 語であったが、該当する語彙が八戸市方言にない、あるいはあまり使わない語彙のため、収集しなかった語彙があった。それらを除くと A 氏からは合計 142 語（内名詞は 141 語）、B 氏からは 91（内名詞は 89 語）語収集したことになる。どのような語彙を収集したかは末尾の補遺を参照されたい。なお、データの中には、助詞付きの音形が収集できていない、単独発話ではない、といった形で、アクセント体系を明らかにするためのデータとしては不十分なものも含まれることをここで述べておく。

2. 先行研究（上野 1977）

具体的なデータをみる前に、ここで先行研究として、八戸市方言ではないが弘前市方言の名詞アクセントの分析を行った上野（1977）をみتينすることにする。上野（1977）をみ

⁶ すがぬま けんたろう：金沢大学・助教 suganumak@staff.kanazawa-u.ac.jp

⁷ いわさき まりこ：八戸工業大学・講師 iwasaki@hi-tech.ac.jp

ると、弘前市方言の名詞は n 拍+1 通りのアクセント型をもつことがわかる。それに加えて、名詞単独発話（以下「言い切り」と呼ぶ）と、助詞が付いた文中等での発話（以下「助詞付き」と呼ぶ）では同じ語であってもアクセントの実現に違いがみられることがわかる⁸。

2. 上野（1977）の弘前市方言の名詞アクセント		※ ーは高音調、\は下降調を表す。	
		言い切り	助詞付き
1 拍：2 パターン	i.	エ（柄）	エモ
	ii.	エ（絵）	エモ
2 拍：3 パターン	i.	カゼ	カゼモ
	ii.	サル	サルモ
	iii.	ヤマ	ヤマモ
3 拍：4 パターン	i.	サクラ	サクラモ

⁸ 正確には、上野（1977）は、以下に示すように名詞単独と助詞付き名詞それぞれに「言い切りの形」と後に用言などが続く「接続の形」があり、計 4 種それぞれでアクセントの実現形、特に下降が現れるか否かが異なるという。以下では言い切りの形の末尾に「。」、接続の形の末尾に「…」を付す。

- | | |
|---------------|------|
| i. 名詞単独・言い切り | サル。 |
| ii. 名詞単独・接続 | サル… |
| ii. 助詞付き・言い切り | サルモ。 |
| iv. 助詞付き・接続 | サルモ… |

今回の八戸市方言においても、ii. 名詞単独・接続の例があり、それが言い切りと異なる場合があった（例：カボチャ。カボチャ…）。しかし、同時に同じアクセント型を示す例もあった（例：ニジ。ニジ…“虹”）。いずれにしろ、今回の調査ではこの 4 種類すべてを網羅的に調べることはできなかったため、本報告書ではもっとも多く収集できた i. 名詞単独・言い切りと iv. 助詞付き・接続に的を絞る。これ以降本報告書で、「言い切り」と言った場合、それは上の i. 名詞単独・言い切りにあたり、助詞付きと言った場合、それは iv. 助詞付き・接続にあたる。

	ii.	キツネ	キツネモ
	iii.	ウサギ	ウサギモ
	iv.	オトコ	オトコモ
4 拍：5 パターン	i.	トモダチ	トモダチモ
	ii.	ウルコメ (粳米)	ウルコメモ
	iii.	テブクロ	テブクロモ
	iv.	クダモノ	クダモノモ
	v.	カミナリ	カミナリモ

[上野 (1977) p. 297 表 9 より一部抜粋]

上野 (1977) は、東京方言では次拍の低音調を引き起こすアクセント核（すなわち下げ核）の有無とその位置が弁別的である一方で、弘前市方言では直前の拍の低音調を引き起こすアクセント核（ここでは上げ核と呼び ' で表記する）の有無とその位置が弁別的であるとし、' がない語においてはアクセント単位の末位（すなわち助詞も含めた語末）のみが高くなるとしている。上野 (1977) の論考をもとに弘前市方言のアクセント規則を形式化するならば、以下の (3) ようになるであろう。

3. i. ' 以前の拍を低音調とし、' 以降の拍を高音調とせよ。⁹
- ii. ' がない場合、語末音節のみを高音調とせよ。
- iii. ' をもつ語の言い切りの発話では語末拍を低音調とせよ。ただし、語末拍に ' がある場合、この低音調と合わせ下降調（\）とせよ。

⁹ 上野 (1977) は ' は直前を下げる機能のみをもつとしており、' がそれ以降を上げる機能をもつとは述べていない。これを忠実に規則に反映させるならば、(3i) の「' 以降を高音調とせよ」という部分は削除し、「高低が決定されていない拍を全て高音調とせよ」とするような、高音調を実現させる別個の規則を設定することになる。本報告書では規則の数を減らし複雑さを軽減するため、便宜上「' 以降を高音調とせよ」とした。

※ 規則 iii は規則 i が適用されたのちに適用される。

(2) の 2 拍名詞を例に挙げれば、以下に示す形でアクセント型が導き出される。なお、ここでいう語末というのは、助詞も含めた語の末尾のことであり、以降もこのような意味で語末という用語を用いることにする。

4. a. 無核：カゼ

i. 言い切り /カゼ/ (3ii) により → カゼ

ii. 助詞付き /カゼ-モ/ (3ii) により → カゼ-モ

b. 1 拍目に ' : 'サル

i. 言い切り /'サル/ (3i, iii) により → サル

ii. 助詞付き /'サル-モ/ (3i) により → サル-モ

c. 2 拍目に ' : ヤ'マ

i. 言い切り /ヤ'マ/ (3i, iii) により → ヤマ

ii. 助詞付き /ヤ'マ-モ/ (3i) により → ヤマ-モ

なお、(3) の規則において、i と iii は拍を参照する規則、ii は音節を参照する規則になっているが、上野 (1977) で挙げられているデータは全て 1 拍軽音節の連続した語であり、(3) の規則全てが音節を対象としたものであったとしても、拍を対象としたものであったとしても、上野 (1977) で挙げられているデータに関する限りでは正しい音形を導くことができる。本報告書では後に (3) に変更を加えた規則を八戸市方言に導入するため、その際に、変更点が最小限になるように (3) の段階から ii は音節を参照した規則、iii は拍を参照した規則とした (i に関しては拍であっても、音節であっても構わない)。この点については、3.1.2. 節で再び取り上げる。

次節では我々が得た八戸市方言のデータをみていくことにする。

3. 八戸市方言の名詞のアクセント型

3.1. A 氏の場合

3.1.1. 2 拍名詞の場合

収集語彙のうち、最も多く収集できた 2 拍名詞をみると、上の (4) に示した弘前市方言と同一、または近似する以下の 3 つのアクセント型が安定して現れた。それぞれの型をここでは、無核型、頭高型、尾高型と呼ぶことにする¹⁰。また、無核型と尾高型では (6a, b) と (8c, d) に示すように「泡」と「粟」というミニマルペアと目されるものが観察された。これらは、言い切りの音調は同じになるが、助詞付きの際に、どこから高音調が始まるかが異なる。

5. 2 拍名詞のアクセント型 ※ 以下では○は拍、- は形態素境界を表す。

- i. 無核型 ((4a) のカゼに近似)：言い切りの場合、助詞付きの場合ともに語末拍に高音調が現れる。ただし、言い切りの場合は単なる高音調ではなく、そこに低音調が加わった下降調となる。

言い切り ○○[↘] 助詞付き ○○-[↘]

- ii. 頭高型 ((4b) のサルと同一)：言い切りの場合、1 拍目が高くなる。助詞付きの場合、助詞までの全体が高く平らになる。

言い切り [↗]○○ 助詞付き [↗]○○-[↗]

- iii. 尾高型 ((4c) のヤマと同一)：言い切りの場合は無核型と同じく下降調が現れる。助詞がついた場合は、無核型と異なり高音調が名詞の 2 拍目から開始する。

言い切り ○○[↘] 助詞付き ○[↗]○-[↗]

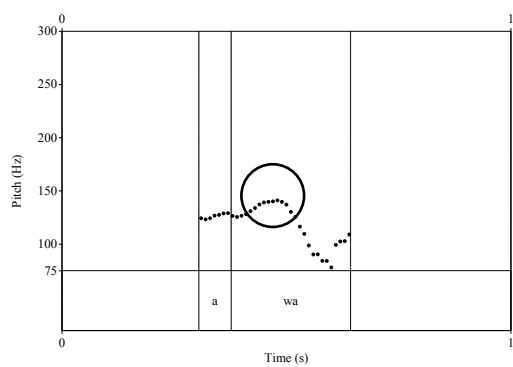
以下にそれぞれの型に当てはまる語例のピッチ曲線を 2 例ずつ示す。なお、ピッチ曲線内で高音調がある部分に丸を付した。さらに、助詞付きの例においては、該当する「名詞 + 助詞」の部分にも丸を付した。

6. 無核型：言い切り ○○[↘]、助詞付き ○○-[↘]

¹⁰ 無核型と尾高型は言い切りの際、語末拍が下降調となる。この際、拍内下降実現のために母音が半長で実現する。

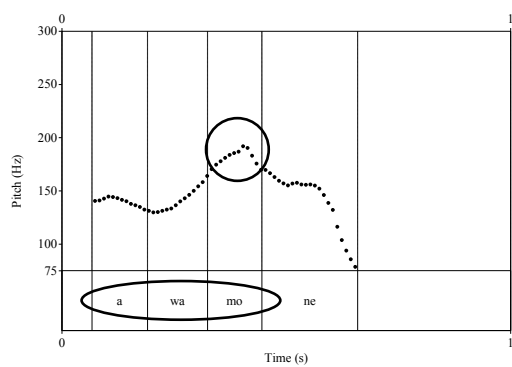
a. 泡（言い切り）

アワ



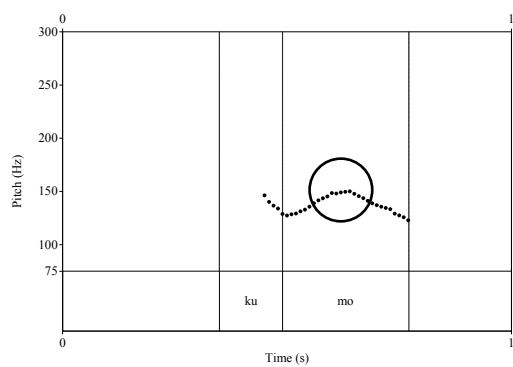
b. 泡もない。（助詞付き）

アワ-モ



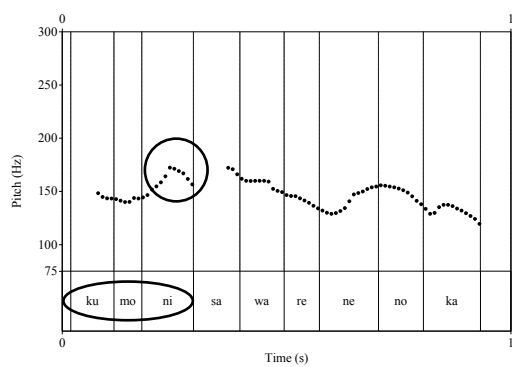
c. 蜘蛛（言い切り）

クモ



d. 蜘蛛に触れないのか。（助詞付き）

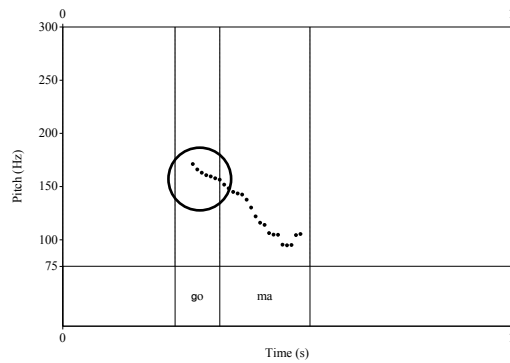
クモ-ニ



7. 頭高型：言い切り ○○、助詞付き ○○-○

a. 胡麻（言い切り）

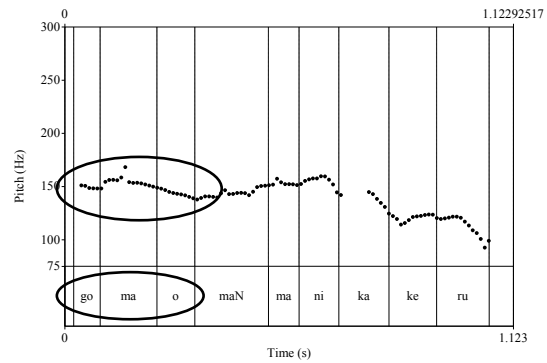
ゴマ



b. 胡麻をまんまにかける（助詞付き）

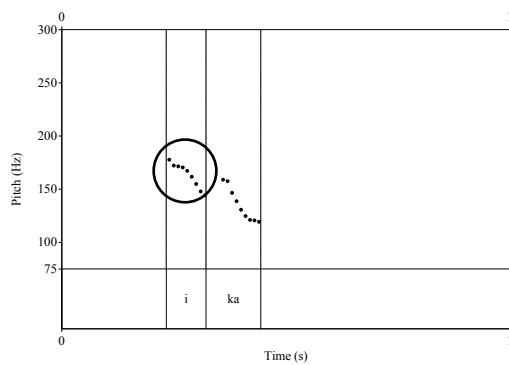
“胡麻をご飯にかける”

ゴマ-オ



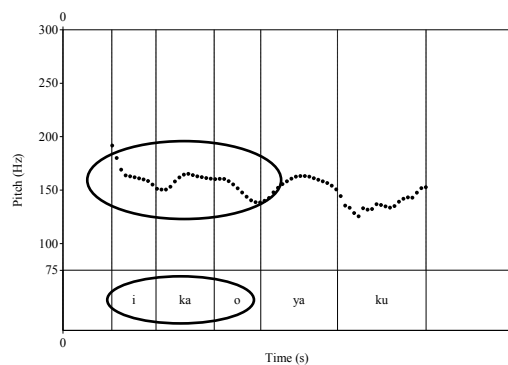
c. イカ（言い切り）

イカ



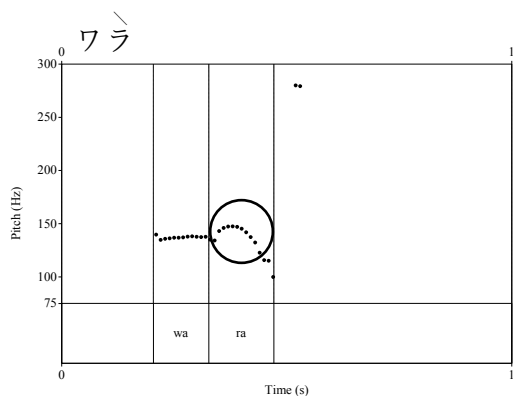
d. イカを焼く（助詞付き）

イカ-オ



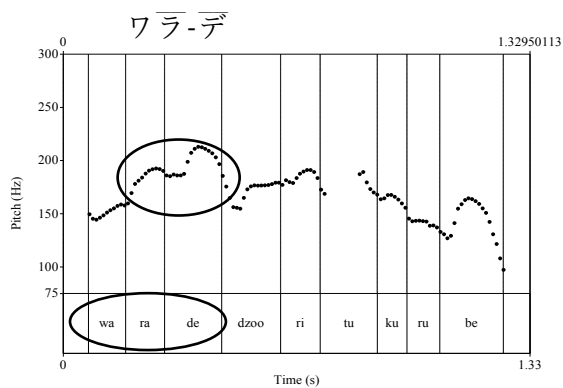
8. 尾高型：言い切り ○○、助詞付き ○○-○

a. 藁（言い切り）

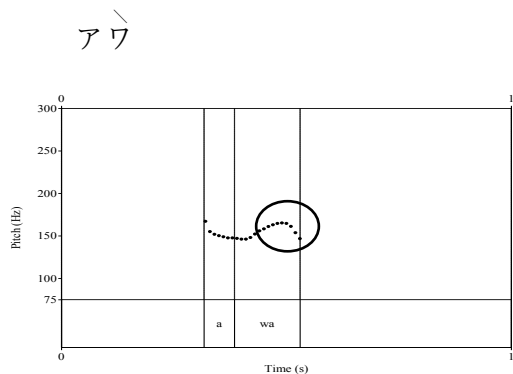


b. 藁で草履作るべ。（助詞付き）

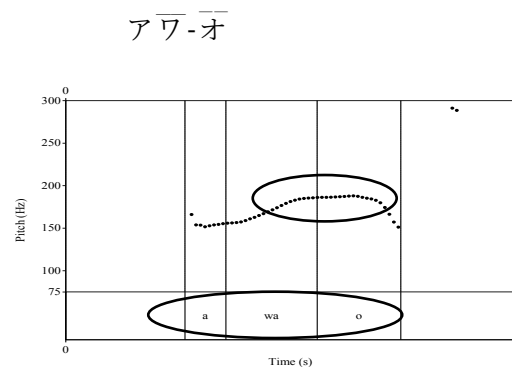
“藁で草履を作ろう”



c. 粟（言い切り）



d. 粟を<飯に混ぜる>（助詞付き）¹¹



(5) から (8) をみる限り、A 氏のアクセント型は弘前市方言と同一の形で捉えることができると思われる。異なるのは、(4a) に近似する無核型で下降調が生じる点である。この点を踏まえ、(3) を基盤に A 氏のアクセント型を導く規則を記述するならば、以下のようになる。

9. A 氏のアクセント規則

i. ' 以前の拍を低音調とし、' 以降の拍を高音調とせよ。

¹¹ (8) の発話では「粟を」の後ポーズが生じた。これ以降、<> をポーズ後の発話内容を表すために用いる。

- ii. ' がない場合、語末音節のみを高音調とせよ。
- iii. 言い切りの発話では語末拍を低音調とせよ。ただし語末拍のみが高音調をもつ場合、その高音調を維持し、低音調と合わせ下降調とせよ。
- ※ 規則 iii は規則 i と ii が適用されたのちに適用される。

10. A 氏の八戸市方言のアクセント型

a. 無核型 (' の指定なし): アワ (泡)

- i. 言い切り /アワ/ (9 ii, iii) により → アワ[↘]
- ii. 助詞付き /アワ-モ/ (9 ii) により → アワ-モ[↘]

b. 頭高型 (1 拍目に ' の指定あり): 'ゴマ

- i. 言い切り /'ゴマ/ (9 i, iii) により → [↗]ゴマ
- ii. 助詞付き /'ゴマ-オ/ (9 i) により → [↗]ゴマ-オ[↘]

c. 尾高型 (名詞の末拍に ' の指定あり): ワ'ラ

- i. 言い切り /ワ'ラ/ (9 i, iii) により → ワ[↗]ラ
- ii. 助詞付き /ワ'ラ-デ/ (9 i) により → ワ[↗]ラ-デ[↘]

3.1.2. 3 拍、および 4 拍以上の名詞の場合

2 拍名詞の次に多く収集した 3 拍名詞においても、(11) に示すように、上野 (1977) の弘前市方言と近似する 4 つのアクセント型が得られた。2 拍名詞で 3 型、3 拍名詞で 4 型得られたことから、八戸市方言の名詞は弘前市方言や東京方言と同じく n 拍+1 通りのアクセント型をもつと考えられる。このように考えると、4 拍では 5 通り、5 拍では 6 通り存在することが予測されるが、今回は 4 拍以上の語彙は収集例が少ないこともあり、以下の (12) に示すように一部の型しか確認できなかった。なお、以下では語中拍に ' をもつと目されるものを新たに中高型と呼ぶことにする。

11. 3 拍名詞のアクセント型

- | | 言い切り | 助詞付き |
|--------|-----------------------------|---------------------------------|
| i. 無核型 | /タマゴ/ タマゴ [↘] | /タマゴ-モ/ タマゴ-モ [↘] |

- ii. 頭高型 /'イルカ/ イルカ /'イルカ-ガ/ イルカ-ガ
- iii. 中高型 /ク'ジラ/ クジラ /ク'ジラ-ヲ/ クジラ-ヲ
- iv. 尾高型 /ハタ'ケ/ ハタケ /ハタ'ケ-サ/ ハタケ-サ

12. 4 拍以上の名詞

言い切り

助詞付き

- i. 無核型 /ムギワラ/ ムギワラ /ムギワラ-デ/ ムギワラ-デ
- /イナビカリ/ イナビカリ /イナビカリ-ガ/ イナビカリ-ア¹²
- ii. 頭高型 /'トビウオ/ トビウオ /'トビウオ-ガ/ トビウオ-ア

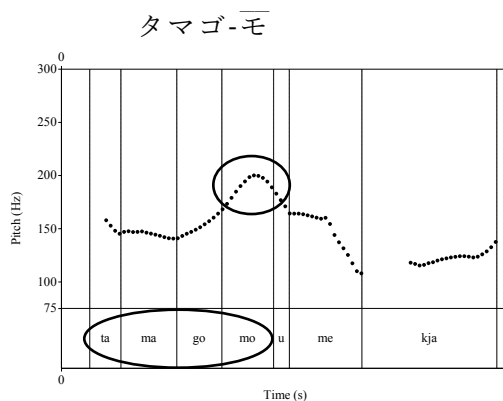
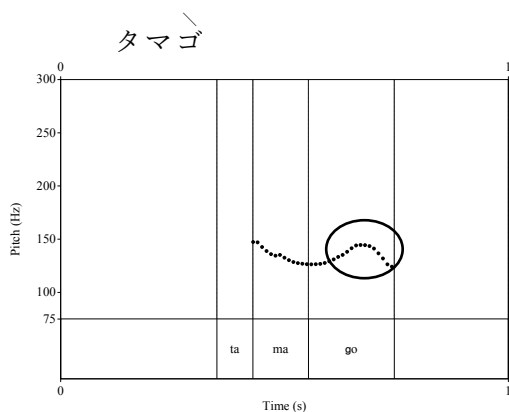
以下に 3 拍名詞のピッチ曲線を 1 例ずつ示す。

13. 無核

a. タマゴ（言い切り）

b. タマゴもうめっきゃ。（助詞付き）

“タマゴもおいしい”

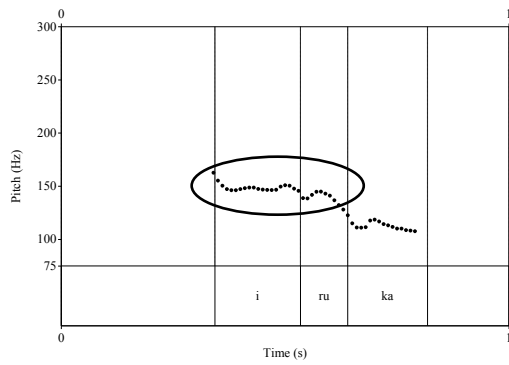


¹² 「ア」は共通語の主格の「ガ」に相当する。

14. 頭高

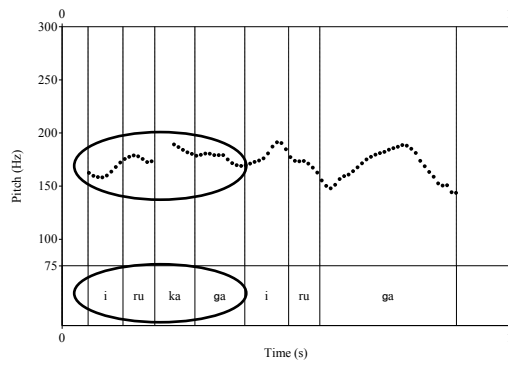
a. イルカ（言い切り）

イルカ



b. イルカがいるか。（助詞付き）

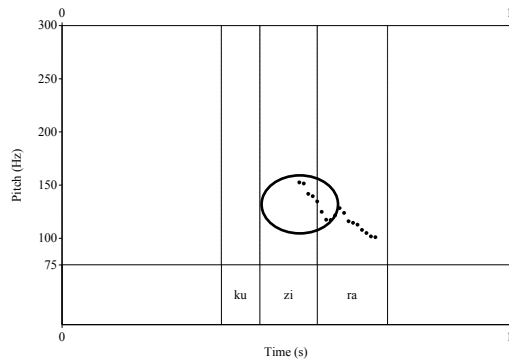
イルカ-ガ



15. 中高

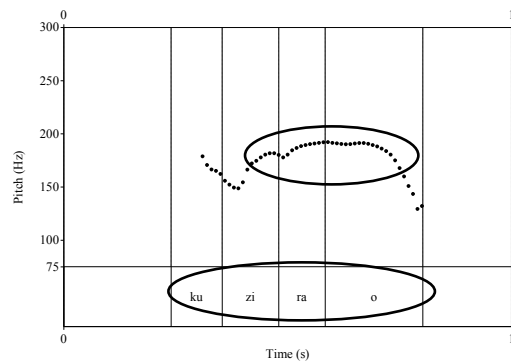
a. クジラ（言い切り）

クジラ



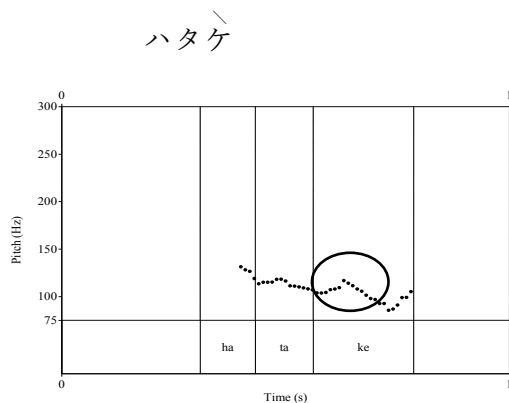
b. クジラを<食う>。（助詞付き）

クジラ-ヲ



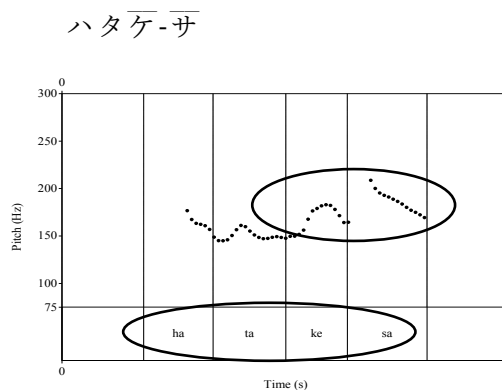
16. 尾高

a. ハタケ (言い切り) ¹³



b. ハタケさ<種まくべ> (助詞付き)

“畑に種をまこう”



また、3 拍以上の名詞では語末に重音節をもつ語例（ダイコン）が収集できた。ダイコンは無核であり、これの言い切りの形ではダイコンのように自立拍が高く特殊拍（ン）が低くなった。この音形は、以下の（17）に示すように（9ii）の規則によって「コン」の部分に高音調が付与され、その後、（9iii）の規則により「ン」の部分低音調となったと考えることで説明ができる。ゆえに（9ii）の規則は音節を参照する規則であり、（9iii）は拍を参照する規則でなければならないのである。

17. ダイコンの派生過程

基底形 /ダイコン/

規則（9ii）ダイコン

規則（9iii）ダイコン

次節では B 氏のアクセント型に関する考察を行う。

¹³ (16) のハタケは、/ハタ'ケ/ のようにケの部分が高核をもつと目されるが、ハタの部分はそれほど低音調で実現していない。これを考慮すると、八戸市方言の ' は「それ以降を高くする」機能のみをもつと解釈すべきかもしれない。

3.2. B 氏の場合

3.2.1. 頭高 B 型の存在

A 氏との共通点と相違点は以下のようにまとめられる。

18. 共通点

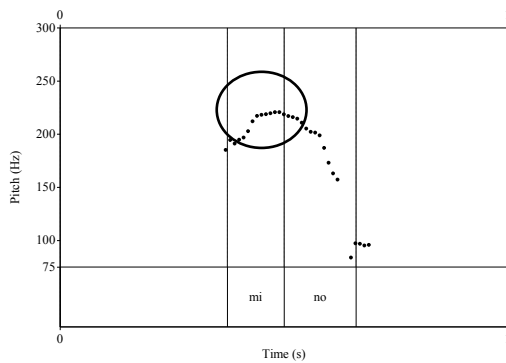
頭高型と尾高型が観察された。各々のピッチ曲線を (20) と (21) に示す。

19. 相違点

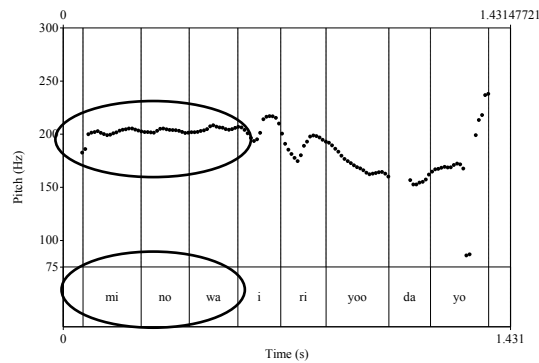
- a. 中高型と考えられる例が見当たらなかった。偶発的なものである可能性もあるため、ここではこの原因について立ち入らないことにする。
- b. A 氏でいうところの無核型が観察されず、それと入れ替わる形で (22) に示す型が観察された。これ以降、これを頭高 B 型と呼ぶ。

20. 頭高型：言い切り $\overline{\text{○○}}$ 、助詞付き $\overline{\text{○○}}-\overline{\text{○}}$

a. みの (言い切り)

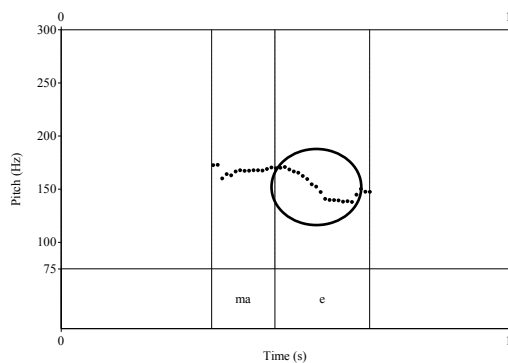


b. 蓑は入用だよ。(助詞付き)



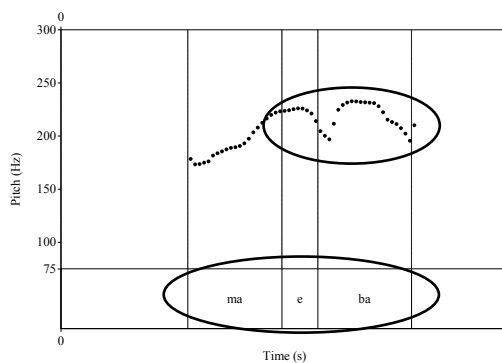
21. 尾高型：言い切り $\circ\circ^{\backslash}$ 、助詞付き $\circ\circ^{\backslash}-\circ$

a. 前（言い切り）



b. 前ば（助詞付き）

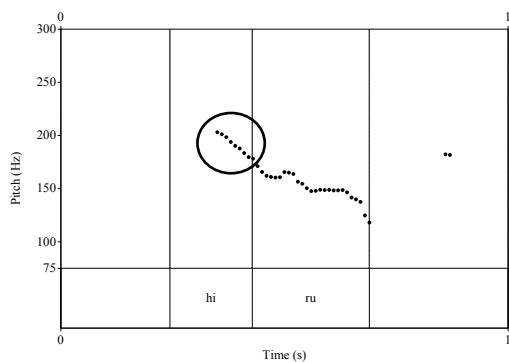
“前を”



22. 頭高 B 型：言い切り、助詞付きともに 1 拍目が高くなる¹⁴。（言い切り $\overline{\circ}\circ$ 、助詞

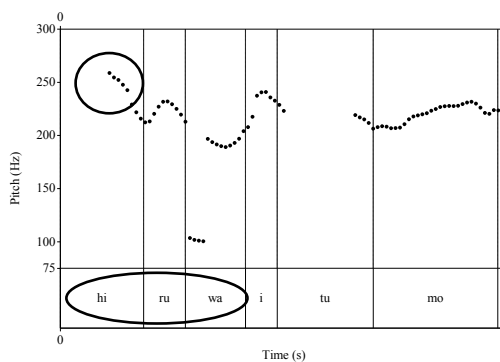
付き $\overline{\circ}\circ-\circ$ ）

a. 昼（言い切り）



b. 昼はいつも<家さいるよ>（助詞付き）

“昼はいつも家にいるよ。”



アクセントを導く規則を検討すると、頭高型、尾高型に関しては A 氏と同じ規則によって捉えられるが、頭高 B 型が問題として残る。A 氏で観察された無核型が観察されず、それに置き換わる形で頭高 B 型が観察されたことを考慮すると、頭高 B 型というのは実は上

¹⁴ 4 拍名詞など、比較的長めの語彙では、1 拍目を起点としてそこから緩やかに下がるような音調が得られた。これを考慮すると、1 拍目が高くなるとするよりも、1 拍目を起点として下降調が生じるとしたほうが適切かもしれない。

げ核がない型（すなわち無核型）であり、B 氏の場合、上げ核がない語においては 1 拍目のみが高くなるような音調が実現する、とする分析案が考えられる。これに関わる部分のみ、A 氏の規則から変更を加え、定式化すれば以下になるだろう。

23. B 氏のアクセント型を導く規則

- i. ' 以前の拍を低音調とし、' 以降の拍を高音調とせよ。
- ii. ' がない場合、1 拍目を高音調とせよ。

例 /ヒル/→ $\overline{\text{ヒル}}$ 、/ヒル-ワ/→ $\overline{\text{ヒル-ワ}}$

- iii. 言い切りの発話では語末拍を低音調とせよ。ただし語末拍のみが高音調をもつ場合、その高音調を維持し、低音調と合わせ下降調とせよ。

※ 規則 iii は規則 i が適用されたのちに適用される。

3.2.2. 頭高 B 型の下位分類

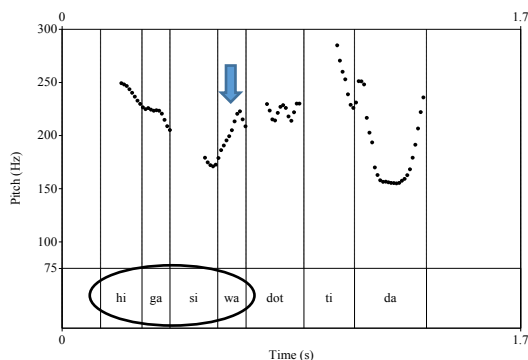
B 氏のアクセントパターンは概ね上記（23）の規則で導き出せると考えられるが、今一つ考慮すべき点として、頭高 B 型の助詞付きの形が挙げられる。観察した限りでは、頭高 B 型の中には助詞がついた際に、その助詞が高音調を伴うものとそうでないものの 2 種類があった。

24. 頭高 B 型（助詞上昇あり）

言い切り： $\overline{\text{〇〇〇}}$ 、助詞付き： $\overline{\text{〇〇〇-〇}}$

例：ひがし

「ひがしはどっちだ」のピッチ曲線：矢印の部分（助詞拍）で高音調が生じる。

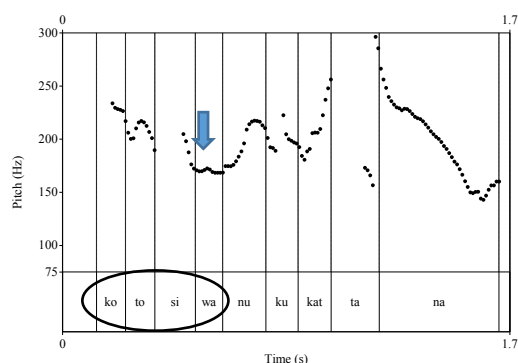


25. 頭高 B 型（助詞上昇なし）

言い切り：○○○、助詞付き：○○○-○

例：ことし

「ことしはぬかったな」「今年は暑かったな」のピッチ曲線：矢印の部分（助詞拍）で高音調が生じていない。



上昇があるのは助詞を強調するイントネーションによるものとみることできるが、仮にアクセントによるものとした場合、頭高 B 型は助詞拍に高音調をもたらすものともたらないもの、という形でさらに下位分類されることになる¹⁵。イントネーションによるものか、アクセントによるものか、今後明らかにしていく必要があるだろう。なお、補遺の語彙リストにおいては、この上昇があるかないかによっても語彙を分類した。

4. 今後の課題

今回は限られたデータ、かつ語彙収集を主眼としており、アクセント研究を主眼としていないデータからではあるが、八戸市方言の名詞のアクセント型に関する考察を行った。A 氏、B 氏ともにそのアクセント型は上げ核を想定することで説明可能であると考えられる。しかし、上げ核をもたない語（A 氏で言うところの無核型、B 氏で言うところの頭高 B 型）に対してどのような音調を与えるかに関して両氏の間で異なる想定をしなければならない点、および 3.2.2. 節で述べた B 氏の頭高 B 型の下位分類に関しては今後さらに検討していく余地があるだろう。

¹⁵ 仮にアクセントとするなら、例えば助詞上昇ありの名詞では /ひがし'○/ のようにその末尾に上げ核が指定されている空の拍があり、言い切りの際はそれが削除されると考える必要があるだろう。

5. 補遺一語彙リストー

5.1. A氏（合計142語）

5.1.1. 1拍（4語）

- i. 無核（1例）：日
- ii. 尾高（2例）：蚊、火
- iii. 助詞付きのデータがないため、無核か尾高か判断がつかなかったもの（1例）：巢

5.1.2. 2拍（77語）

- i. 無核（24語）：影、蛸、蕤、ノミ、鳩、豚、もや、雲、亀、桑、茎、月、犬、石、蝶、土、島、猫、波、浜、泡、海、山羊、げろ “大きめのカエル”
- ii. 頭高（17語）：いか、胡麻、松、竹、梅、桃、貝、蟹、べこ “牛”、蟻、蜘蛛、鷹、風、星、鮫、海老、橋、水
- iii. 尾高（6語）：もみ、わら、粟、ひえ、うり、雨
- iv. 言い切りの形から頭高と目されるが、助詞付きの形をとれていないもの（7語）：虹、丘、虫、蜂、川、せみ、とり¹⁶
- v. 助詞付きのデータがないが、言い切りの形から無核か尾高のどちらかと目されるもの（23語）：花、種、苗、稲、米、麦、かや、いも、まめ、とげ¹⁷、つぶ “巻貝（の一種）”、ふか “鮫、「鮫」との意味上の区別はない”、馬、角、蠅、うじ、羽、空、山、砂、露、潮、よが “夜に現れる蚊”

5.1.3. 3拍以上（60語）

- i. 無核（15語）：からす、けーる “小さめのカエル”、たまご、たんぼ、ばった、むぎわら だいこん、つのまた、やどかり、かまきり、蜘蛛の巣、生き物、洞窟、かたつむり、いなびかり
- ii. 頭高（10語）：ひとで、うなぎ、とびうお、いるか、港、浅瀬、あかり、きゅうり、たてがみ、遠浅
- iii. 尾高（6語）：うさぎ、なまこ、ねずみ、しらみ、はたけ、はらっぱ
- iv. 中高（4語）：いちご、くじら、すすき、みかん
- v. 助詞付きデータはないが、言い切りの形から頭高と目されるもの（2語）：地震、みずたまり

¹⁶ 鶏の意もある。

¹⁷ とさかの意もある。

- vi. 助詞付きデータはないが、言い切りの形から中高と目されるもの(2語): かぼちゃ、あぜみち (アクセント核も付すと、あぜ'みち)
- vii. 助詞付きのデータがないが、パターンから無核か尾高のどちらかと目されるもの(13語): よもぎ、菜っ葉、きのこ、かんぜ “うに”、ひかり、うろこ、かいこ、みみず、とんぼ、すずめ、かみなり、たつまき、おっぱこ “尾”
- viii. 音調がどの型にも当てはまらず検討保留としたもの(8語): うず^ゞら、けむり、さかな、かつお、さつま^ゐいも、きく^ゐらげ、とう^ゐがらし、ゴーヤ

5.1.4. 形容詞であるため、考察から除外したもの(1語)

まぶしい

5.2. B氏(合計91語)

5.2.1. 1拍(2語)

- i. 頭高(1語): 湯
- ii. 指小辞 /-Qko/ がついた例しか確認できず、その語のみのアクセントが不明なもの(1語): 緒 (指小辞がついた音調はオッコ)

5.2.2. 2拍(49語)

- i. 頭高(17語): 味噌、蓑、すそ、内、奥、かど、^{そば}傍、秋、足袋、汁、粕、裏、外、中、おび、跡、布
- ii. 頭高B型
 - a. 助詞上昇なし(13語): 道、村、右、横、上、餅、お茶、昼、酒、かび、底、冬、西
 - b. 助詞上昇あり(6語): 時、坂、今、塩、年、今日
- iii. 尾高(4語): 前、春、夜、下駄
- iv. 助詞付きのデータがないが、パターンから頭高か頭高B型のどちらかと目されるもの(6語): 夏、朝、えり、そで、紐、崖
- v. 音調がどの型にも当てはまらず検討保留としたもの(3語)¹⁸: ひま (ひまが) きた

¹⁸ 「ひま」は助詞付き(ひまが)においてはその後ろに言いよどみによるポーズがあった。こ

(きたは)、した (したさ)

5.2.3.3 拍以上 (38 語)

i. 頭高 (8 語) : まんま “飯”、昔、南、草履、模様、着物、後ろ、昨日

ii. 頭高 B 型

a. 助詞上昇なし (8 語) : 雑炊、西風、今年、来年、おかゆ、隣、明け方、再来年

b. 助詞上昇あり (14 語) : 頂上、東、明日、左、砂糖、表、てぬぐい、去年、
あさって、おとし、やがさって “しあさって”、おととい、さとうきび、はかま

iii. 助詞付きのデータがないが、パターンから無核か頭高のどちらかと目されるもの (3 語) : 翌日、夜中、こよみ

vi. 音調がどの型にも当てはまらず検討保留としたもの (5 語) :

ゆうがた (ゆうがた-に)、やませ (助詞付きデータなし) “東北の風”、

ひがしかぜ (助詞付きデータなし)、きたかぜ (きたかぜも)、

みなみかぜ (みなみかぜが)

5.2.4. 形容詞であるため、考察から除外したもの (2 語)

甘い (音形は [ame̞]), しよっぱい

参考文献

上野善道 (1977) 「日本語のアクセント」大野晋・柴田武 (編) 『岩波講座 日本語5 音韻』
281-320. 東京 : 岩波書店.

れによる自然下降が生じたと考えればこれの本来の音調は「ひまが」であり、頭高だとみなすことができる。また、「きた、した」は第 1 拍の母音が無声化していた。この無声化が音調の実現に影響を与えた可能性がある。

八戸市方言の疑問文とその文末音調に関する調査報告

菅沼 健太郎¹⁹

岩崎 真梨子²⁰

1. はじめに

本報告書は、今回の調査により得られたデータをもとに、青森県八戸市方言の疑問文の形式と文末音調（以下単に音調と呼ぶ）について報告するものである。

本報告書では、まず yes/no 疑問文の形式と音調、次に wh 疑問文（疑問詞疑問文）の形式と音調について述べる。さらに、これらとは分ける形で、確認型疑問文等に現れる文末形式 /be/ の用法および音調について述べる。

なお、今回行った調査、およびその後の追加調査に協力していただいた方々の情報を以下に示す（氏名は公表しないこととする）。この場を借りて同氏たちに感謝申し上げる。

1. A 氏 1948 年八戸市生まれ、男性。

B 氏 1948 年八戸市生まれ、男性。

C 氏 1962 年八戸市生まれ、男性。

3 名は全員言語形成期を青森県八戸市で過ごした方々である。

以降に挙げる例文などのデータは主に A 氏から得たものであるが、場合によっては B 氏、C 氏から得たものを挙げることもある。その場合には例文横に【B 氏】、【C 氏】のように話者を表示する（表示がないものは A 氏からのデータである）。

2. yes/no 疑問文

2.1. 形式

本調査では yes/no 疑問文を形成する文末形式として /do/ と /ka/ の 2 種類が観察さ

¹⁹ すがぬま けんたろう：金沢大学・助教 suganumak@staff.kanazawa-u.ac.jp

²⁰ いわさき まりこ：八戸工業大学・講師 iwasaki@hi-tech.ac.jp

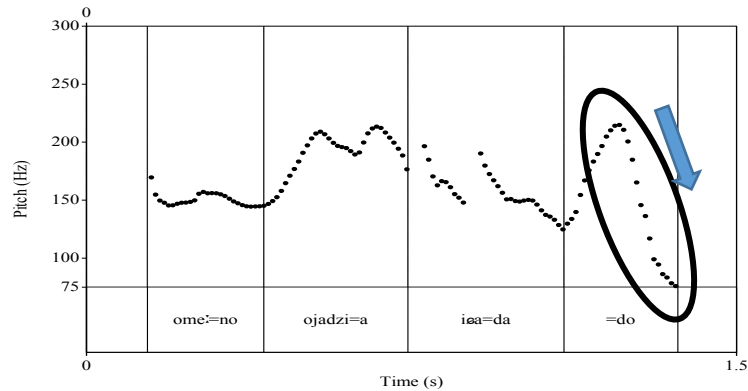
れた²¹。これらは母音に後続する際、それぞれ、/d/ の前鼻音化、/k/ の有声化が起き [ʔdo]、[ga] のような発音になる。これらを述語に承接することで yes/no 疑問文が形成される。また、観察した限りでは /ka/ は準体助詞 /no/ “の” に承接し /no=ka/ [noga] という形で多く用いられていた。/ka/ と /no=ka/ は東京方言の /ka/ “か” および /no=ka/ “のか” と同じものとみてよいだろう。ただし、東京方言の /no=ka/ と異なり、八戸市方言の /no=ka/ は (2c) に示すようにコピュラの /da/ に /da=no=ka/ のようにそのまま承接できる。東京方言の場合、/da=no=ka/ とならず、/na=no=ka/ という形式になる（例：^{ok}君の親父は医者なのか？、*君の親父は医者だのか？）。

2. a. /do/ omee=no ojazi=a isja=da=do
 お前=の 親父=は 医者=だ=ど
 “お前の親父は医者なの？”
- b. /ka/ dare=ka nom-u =ka
 誰=か 飲む・非過去=か
 “誰か飲むか？”
- c. /no=ka/ omee=no ojazi=a isja=da=no=ka
 お前=の 親父=は 医者=だ=の=か
 “お前の親父は医者なの？”

2.2. yes/no 疑問文における音調

木部（2010）は、八戸市方言の質問文（本報告書で言う yes/no 疑問文と wh 疑問文）の文末音調は下降調で実現するという。実際、我々のデータでも、/do/ による yes/no 疑問文では図 1 に示すような急激な下降が観察された。

²¹ A 氏によれば /do/ は目上の者にはあまり用いないという。

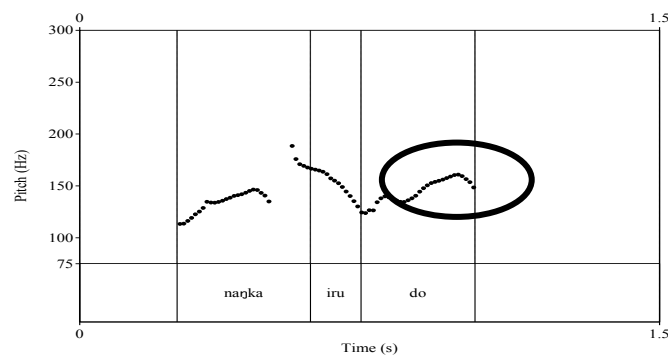


omee=no ojazi=a isja=da=do

“お前の親父は医者なの？”= (2a)

図 1 /do/ による yes/no 疑問文のピッチ曲線

また、此島（1982）は、同方言には疑問の /do/ に加え、強示の意味をもつ終助詞 /do/ というものもあり、文末の /do/ が疑問を表すか、強示を表すかは音調（此島 1982 はアクセントという）によって区別されるとしている²²。我々が得たデータの中にもこの記述に合致するものがあった。以下の 図 2 は強示の /do/ であるが、こちらでは疑問の /do/ のような、急激な下降は観察されなかった。



naN=ka i-ru=do

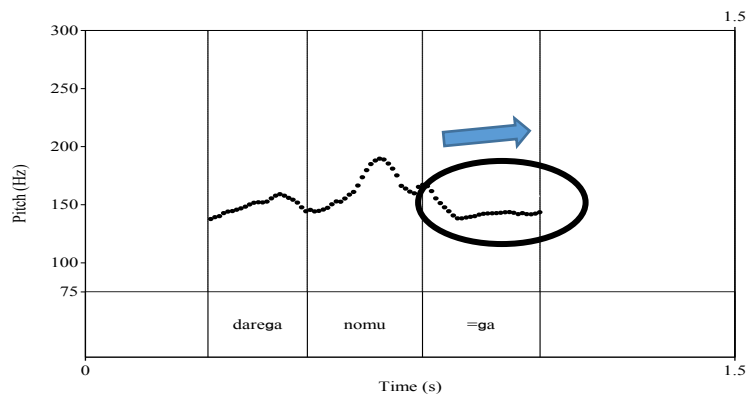
何=か いる-非過去=ど

“何かいるぞ。”

図 2 強示の /do/ を用いた平叙文のピッチ曲線

²² なお、此島（1982）では疑問の /do/ の場合、行クド、来タドのように述語（動詞）によって音調が異なると書かれているが、今回の調査ではこの点についての確認は行えなかった。

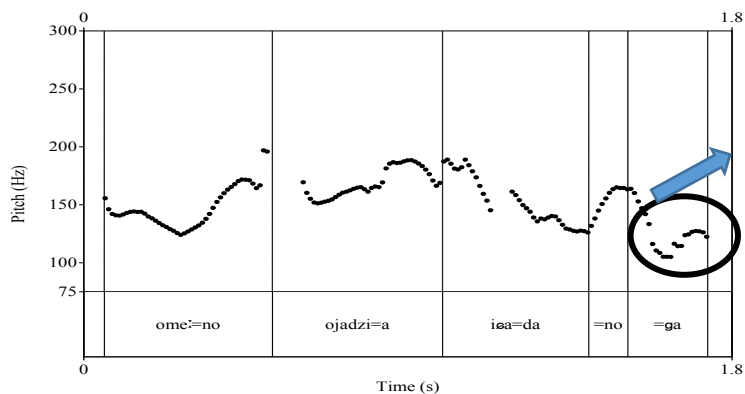
図 1 で示したように yes/no 疑問文の /do/ は下降調で実現する。しかし、一方の /(no)=ka/ では /do/ と異なり緩やかな上昇調が観察された。



dare=ka nom-u=ka

“誰か飲むか？” = (2b)

図 3 /=ka/ による yes/no 疑問文のピッチ曲線



omee=no ojazi=a isja=da=no=ka

“お前の親父は医者なの？” = (2c)

図 4 /no=ka/ による yes/no 疑問文のピッチ曲線

次節では wh 疑問文について述べる。

3. wh 疑問文

3.1. wh 疑問詞

疑問詞として以下の (3) が観察された。[idzi] /itu/ “いつ” 等の、音声レベルでは異なるが、音素レベルでは東京方言と同じ形式だと考えられるものを除くと、形式が東京方言と異なるのは、(3c) “どんな”、(3h) “いくら、いくつ”、(3i) “なぜ” の 3 つであった。

3. a. [dare]	/dare/	“誰”
b. [nani]	/nani/	“何”
c. [dottara]	/doQtara/	“どんな”
d. [dono]	/dono/	“どの”
e. [dore]	/dore/	“どれ”
f. [dottsɪ]	/doQti/	“どっち”
g. [dogo]	/doko/	“どこ” ²³
h. [nambo]	/naNbo/	“いくら、いくつ（量・値段・数全てに用いる）”
i. [naẽɕɪni]	/naNsini/	“なぜ”
j. [idzi]	/itu/	“いつ”
k. [do:]	/doo/	“どう”
l. [do:jatte]	/doojaQte/	“どうやって”

また、/dare/ “誰” については単複の区別があり、複数形の場合は /deNdo/ という形式が用いられる。

4. a. /dare/	“誰（単数）”
b. /deNdo/	“誰（複数）”

A 氏から、/deNdo/ の /do/ は複数形を意味するとのコメントがあった（例 /warasi-do/ “子供たち”）²⁴。すなわち形態素境界が /deN-do/ のように /deN/ と /do/ の間にあり、/dare/ には /deN/ という異形態があることになる。この /deN/ は他にも

²³ /doko/ は与格助詞 /sa/ が承接した場合、/dokosa/ という形式だけでなく、/dosa/ という形式にもなる。

²⁴ ただし複数と言っても、C 氏との調査によれば、この /do/ は無生物には用いることはできないとのことだった（例 */hoN-do/ “複数の本”【C 氏】）。

/deN=da=Qkja/ “誰だ?”のようにコピュラの /da/ の前にも現れた。/da/ や /do/ といった歯茎音を初頭にもつ形態素が承接することが /deN/ の出現条件になっている可能性がある。

3.2. wh 疑問文における文末形式

A 氏との調査では wh 疑問文の文末形式として /no=jo/ と /Qkja/ の 2 形式が現れた。さらに、C 氏との追加調査によれば、yes/no 疑問文で現れた /do/, /no=ka/ も wh 疑問文で用いられるという。まとめると、wh 疑問文では以下の 4 形式が文末に現れたことになる。

5. wh 疑問文における文末形式

- a. /no=jo/
- b. /Qkja/
- c. /do/
- d. /no=ka/

/no=jo/ は音声上は [noe] と実現しうる。また、/Qkja/ はノダ /no=da/ の縮約形ンダ /N=da/ に承接した /N=da=Qkja/ という形で多く用いられた。以下に 4 形式が用いられている例を示す。

6. /no=jo/ が用いられている例

naNsini ano ie=ba kaQ-ta=no=jo
 なぜ あの 家=を 買う-過去=の=よ
 “どうしてあの家を買ったの?”

7. /Qkja/ および /N=da=Qkja/ が用いられている例

a. /Qkja/

omee doo omo-u =Qkja
 お前 どう 思う-非過去=つきゃ
 “お前は どう思う?”

b. /N=da=Qkja/

dare kuru=N=da=Qkja
 誰 来る=の=だ=つきゃ

“誰が来るの？”

8. /do/ 【C氏】

dare oQkane=do

誰 恐ろしい=ど

“誰が恐ろしいの？”

9. /no=ka/ 【C氏】

dare oQkane=no=ka

誰 恐ろしい=の=か

“誰が恐ろしいの？”

/no=jo/ の /no/ について、東京方言であれば、“どうして買ったの？”などように /no/ だけで疑問を表すことができるが、今回得たデータではそのような /no/ で終わるデータは得られなかった。また、/Qkja/ について、これは wh 疑問文だけではなく、以下に示すように平叙文や yes/no 疑問文にも現れうる。ただし、yes/no 疑問文の場合は「お酒を飲むんだったっけ？」のような確認の意味を含む疑問文になる。

10. /Qkja/ を用いた平叙文

sunā komaQkoi=Qkja

砂 細かい=つきや

“砂が細かい。”

11. /Qkja/ を用いた yes/no 疑問文（＝確認の疑問文）

sake nom-u =N=daQta=Qkja

酒 飲む-非過去=の=だった=つきや

“お酒を飲むんだったっけ？”【C氏】

ここで、各文末形式の出現環境を平叙文と yes/no 疑問文も考慮に入れてまとめると、以下のようなになる。

表 1 各文末形式の出現環境

文末形式	/no=jo/	/Qkja/	/do/	/no=ka/
------	---------	--------	------	---------

文タイプ				
平叙文	未調査	✓	*	*
yes/no 疑問文	*	✓ (確認の疑問文となる。)	✓	✓
wh 疑問文	✓	✓	✓	✓

このうち、最も広い分布をもつのは /Qkja/ である。吉田 (2008) では青森県津軽方言の文末形式の /Qkja/ の用法について論じている。その中で吉田 (2008) は、(12) に示す /Qkja/ の使用条件を挙げ、さらに /Qkja/ の用法として (13) の同意要求用法と、(14) の想起要求用法というものを挙げている²⁵。

12. 津軽方言の /Qkja/ の使用条件

発話時に話し手と聞き手に共通の経験・認識がある事態を述べる文に用いられる。

13. 同意要求用法：現在時の話し手の認識について、聞き手に対し認識を共有していることの確認を求める。

例：インフルエンザノ注射ッテイデッキャ [吉田 (2008), p. 4 (16)]

14. 想起要求用法：話し手と聞き手との共通認識の事態を聞き手に思い出し、認識してほしいという話し手の思い（要求）を伝える。

例：昨日野球ヤッタッキャ。ソレデ体ガダルインダ [吉田 (2008), p. 2 (5)]

(13)、(14) ではそれぞれ、「インフルエンザの注射を聞き手も経験していること」、「昨日野球をしたことを聞き手も知っていること」が前提となっている。各例文における用法も考慮し、訳を付すならば、(13) は“インフルエンザの注射は痛い（君も注射を経験したことがあるから、そう思うだろう？）”、(14) は“君も知っていると思うが私は昨日野球をした。そのため、体がだるい”、ということになる²⁶。

これらの用法を考慮に入れつつ、八戸市方言の /Qkja/ の説明を試みると、(10) の平叙文における /Qkja/ は「砂が細かい」という認識を聞き手に同意してほしいという (13)

²⁵ 吉田 (2008) では /Qkja/ ではなくカナ標記の「キャ」としているが、挙げられている例文では「ッキャ」となっているため、本報告書では八戸市方言の /Qkja/ と同じ表記にした。また、吉田 (2008) では文末表現としての /Qkja/ の用法として、同意要求用法、想起要求用法の他に、同意表明、回想、感嘆、伝聞の用法があるとしている。

²⁶ 吉田 (2008) では各例文に具体的な共通語訳は振られていない。

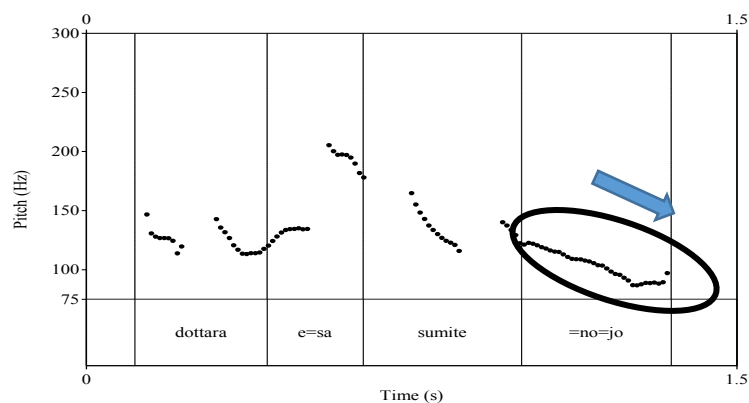
の同意要求用法、(11) の yes/no 疑問文における /Qkja/ は酒を飲むかどうか思い出してほしいという (14) の想起要求用法だと考えることができる。ただし、吉田 (2008) の分析がそのまま八戸市方言にも当てはまるかは今後検討する必要がある。特に、吉田 (2008) では津軽方言の /Qkja/ が疑問文で使用可能であるかは述べられていないため、(11) の yes/no 疑問文の /Qkja/ が本当に吉田 (2008) の言う想起要求に完全に合致するかは不明である。加えて、(7) に示した wh 疑問文における /Qkja/ は話し手が知らないことを聞き手に尋ねている。つまり共通の認識がない場面での発話であるため、(12) の条件に反している。津軽方言と八戸市方言の異同も視野に入れつつ、今後 /Qkja/ の用法について明らかにする必要があるだろう。

3.3. wh 疑問文における音調

wh 疑問文で現れた 4 形式の文末音調は以下ようになった。

15. a. /no=jo/ : 下降
- b. /Qkja/ : 下降
- c. /do/ : 下降
- d. /no=ka/ : 上昇

wh 疑問文で新たに現れた /no=jo/ と /Qkja/ は下降調で実現した。また、yes/no 疑問文でも現れた /do/、/no=ka/ は yes/no 疑問文同様に wh 疑問文でもそれぞれ下降調、上昇調で実現した。以下に、/no=jo/ と /Qkja/ が現れている文のピッチ曲線を示す。

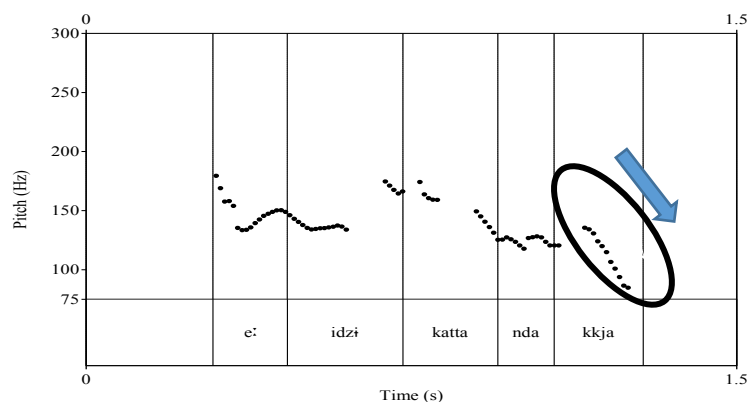


doQtara e=sa sumite =no=jo

どんな 家=に 住みたい=の=よ

“どういう家に住みたいの？”

図 5 /no=jo/ が用いられている文のピッチ曲線



e: itu kaQ-ta =N=da =Qkja

家 いつ 買う-過去=の=だ=っきゃ

“家をいつ買ったの？”

図 6 /Qkja/ が用いられている文のピッチ曲線

4. 文末形式 /be/

4.1. /be/ の意味機能

yes/no 疑問文、wh 疑問文の区別に関わらず、自問文および修辞疑問文においては、/be=ka/ という形式が文末に現れた。

16. a. yes/no 型自問文

arjaa umi=sa de-ru =be=ka

あれ（あいつ）は 海=に 出る-非過去=べ =か

“あいつは海に出るだろうか。”

b. wh 型自問文

nani nom-u =be=ka

何 飲む-非過去=べ=か

“（あの人は）何を飲むだろうか。”

17. a. yes/no 型修辭疑問文 【B 氏】

koQtara uma-ku=ne sake nom-u =be=ka

こんな うま-く=ない 酒 飲む-非過去=べ =か

“（酒にうるさいあの人が）こんなおいしくない酒を飲むだろうか。”

b. wh 型修辭疑問文 【B 氏】

darjaa koQtara uma-ku=ne sake nom-u =be=ka

だれが こんな うま-く=ない 酒 飲む-非過去=べ =か

“誰がこんなおいしくない酒を飲むだろうか。”

また、/be/ という形式は確認型疑問文（～だろう？、～でしょう？など）においても観察された。

18. 確認型疑問文

omee=no ojazi=a maibaN sake nom-ane =be

お前=の 親父=は 毎晩 酒 飲む-否定=べ

“君のお父さんは毎晩お酒飲まないでしょう？”

さらに、この /be/ について此島（1982）では、推量を表すと述べており、今回のデータでもそのような例を得ることができた。

19. 推量の /be/

ame-Qko huQ-te mizutamari deki-ru =be

雨-指小辞 降る-中止 水たまり できる-非過去=べ

“雨が降って水たまりができるだろう。”

推量として用いられる点、修辭疑問文の「～だろうか」に相当する部分に /be=ka/ のように用いられている点、確認にも用いられることを踏まえると、この /be/ は東京方言の推量のダロウに相当する形式であるといえる。ただし、この /be/ はダロウよりも用法が広く、“～しよう”という意向を表すこともできる。

20. koQtja kite sake nom-u =be

こっちに 来て 酒 飲む-非過去=べ

“こっちに来て酒を飲もう。”

また、/be/ は丁寧な命令においても用いられた。「お飲みください」という丁寧な命令を調査した際、A氏は以下の(21)のように「飲んでくれないだろうか」とした。

21. 調査文「どうぞお飲みください」に対して

noN-de ke-ne =be=ka

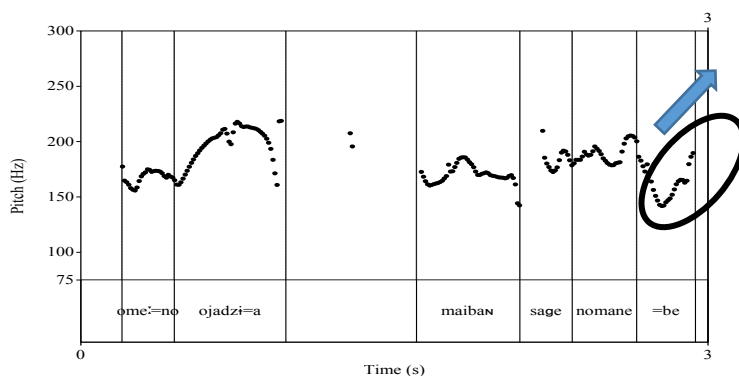
飲む-中止 くれる-否定=べ=か

“飲んでくれないだろうか。”

これは /be=ka/ を用いてあえて自問の形にし、相手に直接の返答を要求していないことを示すことで丁寧さを表現しているのだと考えられる。東京方言でもダロウの丁寧形デショウを用いて、「飲んでいただけないでしょうか」と表現するのと同じものであろう。

4.2. /be/ の文末音調

/be/ は確認型疑問文では東京方言のダロウ同様上昇調になった²⁷。



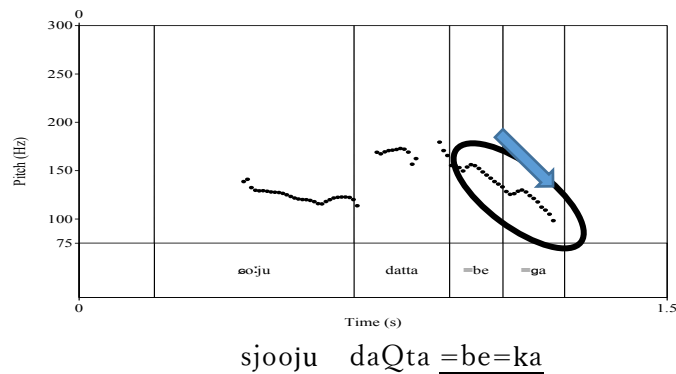
omee=no ojazi=a maibaN sake nom-ane=be

“君のお父さんは毎晩お酒飲まないでしょう？”=(18)

図 7 確認型疑問文のピッチ曲線

²⁷ ダロウの音調については日本語記述文法研究会 (2008, p.39, p. 149)、森山 (1992) を参照した。また、これらの先行研究ではダロウには急激な下降を伴うことで、自身の考えを押し付ける用法もあるという(例: 何度も言っているだろっ!)。/be/ にもこのような用法があるかは未調査である。

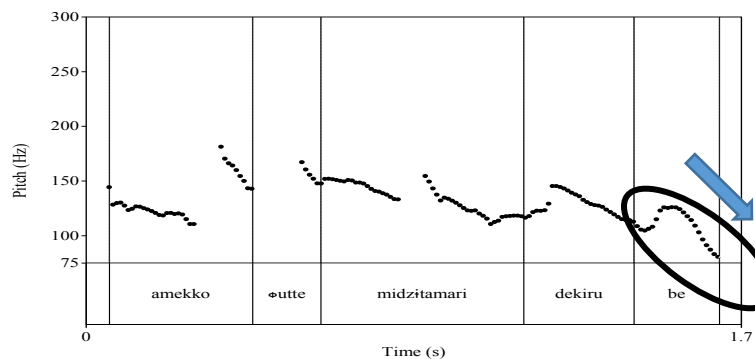
また、自問文、修辞疑問文では /be=ka/ 全体、或いは /ka/ の部分が下降調となった²⁸。さらに、推量文でも /be/ は下降調となった。以下に自問文と推量文のピッチ曲線を示す。



醤油 だった=べ=か

“（料理の手順を忘れて、最初に入れる調味料を思い出して）醤油だっただろうか？”

図 8 自問文のピッチ曲線



“雨が降って水たまりができるだろう。”=(19)

図 9 推量文のピッチ曲線

²⁸ 図 8 は A 氏の発話であるが、これでは /be=ka/ 全体が下降となっている。一方、B 氏の修辞疑問文の発話では /be=ka/ の /be/ で上昇し、/ka/ で下がるピッチ曲線が得られた。話者間でこのような差異はあるものの、/ka/ の部分が下降で実現する点は話者間で共通している。

5. まとめと今後の課題

本報告書では八戸市方言の疑問文の形式と音調について報告した。特に文末形式と音調の調査結果を表にしてまとめると、以下のようになる。

表 2 文末形式と音調の調査結果

疑問文のタイプ	文末形式	音調
yes/no 疑問文 および wh 疑問文	/do/	下降
	/(no=)ka/	上昇
wh 疑問文	/Qkja/	下降
	/no=jo/	下降
自問・修辞疑問文	/be=ka/	下降
確認型疑問文	/be/	上昇

2.2. 節で述べたように、木部（2010）では八戸市方言の質問文の文末音調が下降調で実現することがすでに述べられている。これについては今回の調査でもおおむね同じ結果が得られた。しかし、今回の調査により、同方言では / (no=)ka/ が用いられること、そしてそれが上昇調を伴うことが明らかになった²⁹。

今後の課題としては 3.2. 節で述べた津軽方言との異同のような、他方言との対照が挙げられる。例えば、東京方言などでは“太郎は来る。”に対する“太郎は来る？”のように、疑問詞や疑問の文末形式なしに、上昇調のみで疑問を表すことが可能である。このような音調のみによる疑問表示が八戸市方言においても可能であるかが明らかではない。また、木部（2010）が述べるように、東京方言では yes/no 疑問文、wh 疑問文ともに文末は上昇調で実現する。その一方で八戸市方言は表 2 を見る限り下降調が主である。しかし、確認型疑問文では東京方言のダロウ同様上昇調が確認された。他にどのような文タイプで音調に関して方言間の異同がみられるのか今後明らかにしていきたいと考えている³⁰

²⁹ /(no=)ka/ という形式は、“お前の親父は（本当に）医者なのか？”のように、やや強い疑いのモダリティをもつものの、上昇調を伴う形で東京方言でも用いられるため、これは東京方言（を基盤とした共通語）の影響により成立した可能性がある。

³⁰ 命令形においても顕著な下降調が現れたことをここで述べておく。このような下降調は東京

参考文献

- 木部暢子 (2010)「イントネーションの地域差—質問文のイントネーション—」小林隆・篠崎晃一 (編)『方言の発見—知られざる地域差を見る』1-20. 東京：ひつじ書房.
- 此島正年 (1982)「青森県の方言」飯豊穀一・日野資純・佐藤亮一 (編)『講座方言学4—北海道・東北地方の方言—』213-236. 東京：国書刊行会.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2008)『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』東京：くろしお出版.
- 森山卓郎 (1992)「推量をめぐって」『言語研究』101: 64-83.
- 吉田雅昭 (2008)「青森県津軽方言地域における文末・接続表現『キャ』の用法」『文芸研究』167: 1-14.

方言ではみられない。

Nga tjaQtjato nom-e: ↘

お前 さっさと 飲む-命令

“お前、さっさと飲め！”

八戸市方言民話資料における 文末テンス・アスペクトの分析試論

寺嶋大輔³¹

1. はじめに

方言の保全活動は、民話の伝承活動と親和性が高い。たとえば、民話の語り手は自分たちの母語である方言にも強い関心と思い入れを持っていることが多く、各地で開かれる方言イベントにおいても、方言による民話語りは人気コンテンツの一つとなっている。

八戸市方言についても、八戸市公民館館長の榎谷伸夫氏が「南部昔コ語り部養成講座」を毎年開講して人気を博しているほか、毎年12月に開催される方言イベント「南部弁の日」では老若男女問わず様々な市民が方言による「昔コ」を楽しんでいる。「方言による昔コ語りは（筆者注：子どもたちの南部弁との接触機会の足掛かりとして）有効な手段の一つとして利用していただけるのではと思います」（榎谷、2016）ともあるように、八戸市方言の活性化事業において、民話は大きな役割を期待されている。

ところで、民話で語られる方言は、日常会話でみられる方言とは異なった特徴をいくつか持っている。一例を挙げれば、民話は「過去にあったと伝えられる出来事を語る」というシチュエーションのためか、文法的にはタ形などのテンス・アスペクト表現が多用される。こうした民話資料に登場する特徴的な方言表現を詳しく分析すれば、日常会話の調査だけでは気づきにくい方言の側面を明らかにできることが期待される。

一方で、民話資料について言語的に分析する際には、同時に民話語りという文体の独自性も考慮する必要がある。民話のテキストは、「架空の物語を語り手が語る」という点において三人称小説のそれに近い性質を有していると言いきことができ、そういう意味では、小説の文体論が援用できそうな側面もある。ところが、小説が「架空の語り手が架空の聞き手に架空の空間を超えて一方通行的に語りかける」という形式を持っているのに対して、民話語りの場合は、実在の（その場にいる）語り手と実在の（その場にいる）聞き手が実在の同一空間を共有しながら、語り手が聞き手を巻き込むような語りかけをしばしば行い

³¹ てらしま だいすけ：東北大学文学研究科

ながら物語が展開される。そのような民話語りの特性は、民話のテキストの文体においても少なからぬ影響をもたらしていることが考えられる。

本研究では、八戸市方言で書かれた民話資料について、テンス・アスペクト表現に注目して調査を行い、民話語りテキストの独自性に注意しながらその特質について探索的に分析を試みる。

2. 調査資料「南部昔コ語り部養成講座テキスト」について

本論に入る前に、本研究で用いる調査資料「南部昔コ集語り部養成講座テキスト」について紹介させていただきたい。

この調査資料の主な底本になっているのは、八戸市の郷土史家・正部家種康氏（1925-2012）が生前に聞き歩いた南部地方各地の「昔コ」を編集・出版した民話集 2 点である。正部家氏の民話集は、数編を除いて基本的に共通語で書かれていたのだが、これらを先述の榎谷伸夫氏が八戸市方言に「再翻訳」・再話し、2013 年に初回が開講された「南部昔コ語り部養成講座」のテキストとして用いた。「語り部養成講座」という名前の通り、この講座は、南部地方に伝わる昔コを単に読んで楽しむだけでなく、次の世代へ語り継ぐための語り部を養成することを目的に開かれており、テキストはその語り聞かせのための台本のような性質を持っていると言える。また、このテキストは、多くの南部弁を知ってもらいたいという榎谷氏の思いから方言表現が多用されている、地域のラジオ放送にも用いるために長くなっている部分もあるなど、方言をより楽しむための工夫が多く施されている（榎谷、2014）。

今回調査資料として用いるのは、この「南部昔コ語り部養成講座」の第 1 回テキスト（榎谷、2019）³²として使用された計 80 話で構成される民話集である³³。

³² 榎谷氏との e メールでのやりとりによると、第 1 回テキストは 2013 年の初年度講座で用いて以来、毎年改良を重ねているという。本論で使用したのは、2019 年 12 月最終更新のデータである。

³³ 「南部昔コ語り部養成講座」の第 1 回テキストと第 2 回テキストに収録されていた民話は、若干の加筆・修正を加えたうえで、「南部昔コ集 第一集」(2014)、「南部昔コ集 第二集」(2016)として書籍化されている。講座テキスト版と書籍版は、表現方法等に多少の相違点はあるものの、物語の構成自体はほぼ同一である。

3. 調査方法

調査方法は、以下のように行った。

柗谷（2019）のうち、まず、作中人物が発していると考えられる台詞や唄の部分（釘括弧「」でくくられた箇所や庵点ゝで始まる箇所）、米印※で始まる箇所や括弧（）でくくられた共通語による解説部分等を取り除いた。これらを除去した結果集まった、語り手による地の文（ナレーション部分）について、「。」、「！」、「？」で終わる文を一文とカウントし、Excelで集計した。

こうして検出した合計 3,679 文について、主節述部にあらわれたテンス部分に注目してタ形、タッタ形、非タ／タッタ形に大別、続いてこれらをテ（イ）ルなどのアスペクト形式ごとに分類を行った（あきらかに誤字と見られる文は、分類から取り除いている）。なお、今回の調査はあくまで主節述部のみに着目しているため、主節ではなく従属節にテンス・アスペクトが現れている構造については、分析の対象外としている。また、当該方言の語彙や文法の概要を調べる際には、能田（1982）、平山・編（2003）を参考にした。

4. 調査結果と考察

まずテンス形式とされるタ形、タッタ形、非タ／タッタ形の出現文数を表したものが、表 1 である。

表 3 タ形、タッタ形、非タ／タッタ形の出現文数

	出現文 数	%
タ形	2,347	63.79%
非タ／タッタ形	776	21.09%
タッタ形	143	3.89%
体言止め・述部なし・倒置等	165	4.48%
その他 ³⁴	248	6.74%
合計	3,679	

³⁴ 「その他」には擬音や動物の鳴き声、「なんと！」などの感動詞、物語を締めくくるための定型の結末句「どっとはら〜い。」などが属する。

さらに、タ形、タッタ形、非タ／タッタ形についてそれぞれの完成／継続のアスペクト表現に注目して出現文数を集計すると、表 2 のようになった。

表 4 各アスペクト表現の出現文数

		出現文数	%
タ形 (2347 文, 63.79%)	タ	2184	59.36%
	テ（イ）ダ	96	2.69%
	テオリアンシタ	66	1.79%
	テラ	1	0.03%
非タ／タッタ形 (776 文, 21.09%)	無標	682	18.54%
	テ（イ）ル	52	1.41%
	テオリアンス	40	1.09%
	テアル	2	0.05%
タッタ形 (143 文, 3.89%)	テ（イ）ダッタ	61	1.66%
	タッタ	51	1.39%
	テラッタ	30	0.82%
	テアッタ	1	0.03%

この集計結果から、①完成相タ、②完成相非タ／タッタ、③完成相タッタ、④継続相非敬体（テ（イ）ダ、テラ、テ（イ）ル、テ（イ）ダッタ、テラッタ）、⑤継続相敬体（テオリアンシタ、テオリアンス）のそれぞれの特徴について、簡単な考察を試みる。

4.1. 完成相タ

まず全体を通して目を引くのが、全ての地の文のうち 6 割弱を占めるタ形の多さである。

- (1) まるって³⁵日照りが続いで、田んぼさ入れる水が不足して、田植えよ済ませだ苗が枯れ
そうだったじもえ。

「おんばの皮」

- (2) 婆様ア、爺様さ鋤よ持だせ、ぼったで³⁶畑さ行がせだ。

「ネズミ穴に入った爺様の話」

³⁵ まるって＝とても（強い）

³⁶ ぼったでる＝追い立てる

しかし、このようにタ形が多用される理由は、本当に民話の物語が「過去の出来事」だからというだけだろうか。少々検証してみたい。

たしかに(1)、(2)のような物語中で発生した出来事や、作中人物が行ったことを客観的に記述した描写では、タ形が用いられることが多い。小説等のテキストの文体について研究した工藤(1995)は、タ形文は「作中人物の意識の対象化」を起こし、作中人物の内的視点そのものではなくなるという効果を持つことを指摘している。こうした小説における文体の特徴は、民話語りのそれにおいても援用できると考えられる。

(3) して、一口ガリッとかじってみだ。したっきゃ、したっきゃでエ、渋いごど渋いごど。
喰れだもんでねえ。渋さは目ん玉^マ飛び出すくらいだった。

「由来の話「弘法大師と渋柿」」

(3)の場面では、登場人物の婆様が渋柿を食べたときのリアクションが述べられている。「目玉が飛び出すくらいだった」というように渋柿の渋さをタ形で比喩的に表現しているが、前文までと同じく非タ形を続けて婆様の内的独白的な文にすることも可能だったはずである。ところが実際にはタ形で表されているために、婆様が「目玉が飛び出るくらい」と感じた渋柿の渋さを、語り手が外側から対象化したような表現となっている。

このような「意識の対象化」、つまり作中人物の行動や考えを外部から客体的に語る文体は、民話語りと相性が良い。元来、話し言葉だけで伝えられてきた民話は、耳だけで理解できるように語られており、複雑な修辞表現などは敬遠する傾向にあるという。すると必然的に、小説では好まれるような登場人物が何を考えていたかなど繊細な内面描写は避けられ、起きた出来事だけを淡々と語る語り口——すなわち、一步引いた視点から客観的に語っている印象を受けるタ形が相応しいということになる。昔話研究者の小澤俊夫は次のように述べている。

出来事として重要な、いちばんもとの動詞だけで語っているから、このように明瞭な場面が浮かび上がってくるのです。それは、マックス・リュティがいう、「昔話は描写しないで記述するだけである」という性質そのものであるということができます。

(小澤、1999)

このように考えると、昔話の語りにタ形が多いのは、過去に起きた出来事を語るからという理由だけではなく、タ形で「意識の対象化」を行うことによって登場人物の内面描写にできるだけ踏み込まないようにするという語りの戦略のためでもあると考えられる。

こうした理由から、本資料もタ形がこれほどまで多用されていたと推測することができる。

4.2. 完成相非タ／タッタ

完成相タに次いで多かったのが、タやタッタといったテンスなしで表現する方法（～ル、～ダなど）で、地の文全体の約2割を占めていた。

先述のとおり、タ形には登場人物の意識を対象化する機能があることを述べたが、これを逆に言うと、タ形を用いずに表現することは、登場人物の内的意識を登場人物の内的意識のままにとどめておく効果が期待できると考えることができる。

- (4) 伝三郎ァ、豆料理を数え始めだ。(中略) なんぼ数えでも、四十六しかねェ。二つつ足りね。伝三郎ァばだめいだ³⁷。ばだめいだんども、ハア、どうもせね。大晦日の当日だもえ。これがらこさろう³⁸にも、間に合わねェ。

「伝三郎長者」

- (5) 長治ァ（石臼を）試しに回してみだ。したっきゃ、なんと！何も入れでねェのさ、あの隙間がらじゃらじゃら出でくるものがある。何だべがど思って、よぐよぐ見だらば、米でねェが！回せば回すほど、米ァじゃらじゃら、じゃらじゃら出でくる。

「メドツの宝物」

(4)は、大黒様から48種類の豆料理を作るようお告げを授かった伝三郎が、作った豆料理の数を数えるという場面である。非タ／タッタ形にし、しかもそれを連続で用いることで、料理の数が何度数えても足りないことに焦燥する作中人物の緊張感が、語り手の価値判断なしに聞き手へダイレクトに伝わってくる効果を持つ。

(5)の「じゃらじゃら出でくるものがある」や「米がじゃらじゃら出でくる」は、語り手が第三者的な視点からその様子を描写している文体であると考えられるが、その中間に「米でねェが！」という感嘆表現があることを考えると、その前後の文も長治の気付きを語り手が代弁していると考えたほうが良いだろう。この場面もやはり、石臼を引いたら米が出てきたときの作中人物の驚きが、臨場感をもって聞き手に伝わる。

タやタッタ等のテンスなし表現は、こうした作中人物の知覚や気付きを表現した文において多く用いられていた。また、これらはいずれも作中人物が実際に言語化して発言しているわけでもないで、内的独白とも異なる。すなわち、作中人物が知覚したものの、言語化できていない段階の内的意識を、語り手が内的意識のままで（「意識の対象化」というフィルターを通さずに）聞き手に伝えている表現であると考えられる。このような表現に

³⁷ ばだめぐ＝あわてる

³⁸ こさる＝準備する

よって、聞き手はその作中人物に起きた出来事を、あたかも眼前で体感しているようなり
アリティを共有する効果があると期待される。これは先述の「昔話は描写せずに記述する」
と矛盾しているようにも思われるかもしれないが、複雑な修辞技法を用いない最小限の内
面表現にとどまっているため、この原則は維持されていると考えられる。

(6) とごろが、この坊様ァ、…（中略）…まなぐァ見えねえどごで、自分が鯨に喰れだの
も、な～んもらじゃねえ³⁹。鯨の腹の中さス～っと入っていったじおな。

「鯨と坊様」

さらに(6)では、「眼の見えない坊様が鯨に食べられたことを理解していない」という作
中人物が知覚すらしていない状況を語り手が代わりに述べており、それが「鯨の腹の中に
入っていった」というユーモラスな場面へとつながっている。非タ／タッタ形が「登場人
物が知覚したものの言語化していない情報」を語り手が代弁できることは先述したが、(6)
のように「登場人物が知覚すらしていない情報」であっても、語り手は言語化することが
できる。このような特徴のためか、否定表現「ない」「あんせん」はタ／タッタ形をともな
わずに現れることが多かった。

以上をまとめると、非タ／タッタ形の表現は、作中人物の内的表現を内的表現のまま（た
とえ作中人物自身が知覚していなくても）伝えることで、作中人物の目の前に起きている
出来事を、臨場感を込めて聞き手に伝えられる効果があると言える。

4.3. 完成相タッタ

東北方言には、タッタ形という独自のテンス形態が存在する。竹田（2020）によると、
これはテアッタが縮約されて成立したもので、現在と切り離された過去の意味を持つとい
う。本資料では、タッタ形は 51 文観測された。

ただし、本資料において「タッタ」と共起した動詞は存在動詞「いる」のみ、つまり「い
だった」という表現のみが観測できた。また、文例を具体的に確認してみると、物語の冒
頭で「昔々、あるところに〇〇がいだった」という形で現れることが圧倒的に多く、51 の
用例中、物語の冒頭で「昔々、ある所に〇〇が『いだった』」というような形式で現れたも
のが、41 例確認できた。

(7) むが～し、むがし、あるどごさ、正直者で稼ぎ手の爺様ァいだったじ。

「山の中の宝物」

(8) むが～し、むがし、ある所に一人暮らしの婆様ァいだったず。

³⁹ らじゃねえ＝理解できない

「百枚のたんぼ」

竹田（2020）は、タッタは遠い過去を表す時間副詞と共に起することで「出来事と発話時現在との断絶性」が強調され、「回想」の用法が強められた表現になると指摘しており、「昔々」という時間副詞がある(7)や(8)は、竹田の主張を裏付ける文となっている。確かに爺様も婆様も遠い昔の人物で、現在とはなんの繋がりも持たないかのように思われる。

ところが、ここで一つの疑問が浮かぶ。そもそも民話語りという形態自体が、出来事と発話時点とが断絶された遠い昔の出来事を語っているはずであるはずなのに、どうして「出来事と発話時点との断絶性」という特徴を持つタッタ文がこれほどまで少なく、しかも物語冒頭という特定の場面にばかり集中しているのか、ということである。それは、民話語りという形式の独自の構造によるものと考えることができる。

地域にもよるのだが、昔話は「昔々…」などの定型の発端句から始まり（発端）、物語が進行する部分を挟んで（展開）、終わりもやはり定型の結末句によって締めくくられる（結末）ことが多い⁴⁰。発端句は聞き手を空想に満ちた物語世界へとといざなうためのいわば枕詞であり、結末句は物語世界を旅してきた聞き手を現実世界へと引き戻す役割を持つ言葉である。

昔話がこのような構成を持つなか、タッタが登場するのは大半が冒頭の発端句周辺、物語の背景を語る箇所である。この時点では、爺様や婆様は遠い遠い昔の「いだった」者として語られる。ところが、物語の背景説明が完了して物語が本格的に語られ出すと、タッタで語られていた爺様や婆様もあたかも実在したかのような人物として動き出し、「いだ」などタッタ以外の形で語られ始める。こうして始まる展開部において、語り手は出来事を「本当にあったこと」として語り、聞き手はそれを「本当にあったこと」として受け取り、あたかも作中人物に起きた出来事を実際に追体験しているかのような場が形成されていく——というのが、民話語りの場である。そして、そのような「追体験」の場には、発話時点と出来事時点の断絶はない。こうして物語が終わると、語り手は結末句を発することによって物語世界での遊びに区切りをつけ、聞き手を現実世界へと連れ戻す。

そのような民話語りの構成を考えると、発話時点と出来事時点の断絶を表すというタッタは、少なくとも民話の冒頭部以外においては相性が悪いと考えるのが妥当であると言えるだろう。民話は決して今と無関係に存在するのではなく、今ここにも開いているものである。以上が、当資料においてタッタ形の出現頻度が少なく、しかも出現場面に偏りがあった理由であると考えられる。

⁴⁰ 南部地方の民話では、「どっとはらい」が結末句にあたる。

4.4. 継続相（非敬体）

ここでは、継続相のテ（イ）ル、テ（イ）ダ、テラ、テ（イ）ダッタ、テラッタについて考察を行う。

竹田（2014）によると、これらはいずれも継続形を表すが、テダとテラは現在・過去の継続形（どちらの意味になるかは文脈による）で、テダッタとテラッタは過去の継続形であるという。それぞれの「ダ」と「ラ」の違いは、単に[d]と[r]の子音交替である（意味の区別を持たない）と考える見方もあるが、津田（2013）によると、「テラ」はその出来事が存在することのみを表すという眼前描写性を表すのに対し、「テダ」は、もっぱら他者への伝達を意図する場合に用いられるという弁別性を持っているという。本論では、竹田（2014）や津田（2013）と照応しながら考察を試みる。

・テ（イ）ダッタとテラッタ

まず、テ（イ）ダッタとテラッタについて比較・考察する。本資料では、両者は文末助詞「じ」の共起率が異なっていた。当該方言には、述部に後続して「～（だ）そうだ」という伝達の意味を付加するジという文末助詞が存在する。本資料上では「ず」と表記されることや、強調の意味の「おん」などを添えて用いられることもあったが、「て（い）だった」「てらった」の両者について、この文末助詞「じ」が後続した文数を集計すると以下のようになった。

表 5 テ（イ）ダッタ、テラッタに後続した文末助詞

	後続助詞なし	+ジ	+その他助詞	合計
テ（イ）ダッタ	8	51	2	61
	13.11%	83.69%	3.28%	
テラッタ	7	13	10	30
	23.33%	43.33%	33.33%	

表 3 が示すとおり、テ（イ）ダッタはジの後続率が、テラッタと比べて非常に高いことがわかる。ジの共起が起こる条件については、その他にも本動詞との相性や前後の文脈など複合的な要因も考えられるが、ジが伝聞の文末助詞であるという性質上、テダは主に伝聞的な文脈で用いられるという津田（2013）の見解と決して無関係ではないと考えられる。

一方、テ（イ）ダッタにはなく、テラッタのみで見られた用例については、物語の途中で組み込まれる語り手自身によるメタレベルの推測や気付きの文が観測できた。

(9) 面ァ洗っただけで村の人んどァ集まってきた。んだべ、大事だ相談この前にマンマミ

ったの⁴¹よ喰ってられるがって、みんな思ってたんだべな。

「イダコマイマイイシ」

- (10) あ〜、ほんだ、ほんだ。忘れでらった、忘れでらった。あのなす、あの建物だんども、
屁よふってもいい建物だすけ、屁の建物で部屋ど呼ぶようになったそうであんすえ。

「へったれ嫁ゴ」

(9)下線部は飢饉の危機の中、大漁祈願の神様である恵比寿様に供え物をするために集まった村人の心境を語り手が推測する状況で、(10)は語り手が下線部以下のことを思い出すという状況の文となっている。これらはいずれも物語中の出来事をそのまま語り伝えるのではなく、語り手自身の主観的な判断が入っている文なので、津田（2013）の言う眼前描写性を述べるとされるテラ（ッタ）を用いるのが相応しいと考えられる。このような語り手の主観を述べた文でテ（イ）ダッタを用いたものは観測されなかった。

- (11) とにかく、みんなして、「グス」「グス」ど呼んでいったじ。

「うすのろのグス」

- (12) この辺りの人んどァ、この沼よ八太郎沼ど呼んでらったじおな。

「沼の主どお姫様」

一方で、(11)と(12)のような極めて類似した状況を述べた文であっても、実際の用例はテ（イ）ダッタとテラッタに二分されるパターンもいくつか観測された。両者の使用実態を明らかにするには更なる調査を必要とするが、両者は必ずしも厳密に使い分けられているわけではない可能性もある。

以上をまとめると、本資料におけるテ（イ）ダッタとテラッタは、前者は伝聞性、後者は眼前描写性という状況で用いられる傾向があり、津田（2013）の見解と一致する側面が見られた。しかしながら、不明瞭な部分も多いため、これからも更なる調査を必要とする。

・テ（イ）ル、テ（イ）ダ、テラ

次に、テ（イ）ル、テ（イ）ダ、テラについて考察する。まず、テ（イ）ダとテラの対立については、本資料ではテラが1文しか現れなかったため、96文現れたテ（イ）ダとの比較考察はできないが、一方でテ（イ）ルは52文と比較的頻繁に現れた。津田（2013）では、テ（イ）ルは恒常的な状態を述べるときに積極的に用いられると述べているが、本資料においてはそのような文はほとんど見られなかった。本資料においてテ（イ）ルが用いられる文は「んでねえが」（＝のではないか）が後続するものが極めて多く、テ（イ）ルが使用された全52文中43文が「て（い）るんでねえが」という形で実現していた。

⁴¹ みったの＝のようなもの

- (13) しだどごろが、なんと！庄屋様は病気どごろが、ぶんぐり⁴²畑仕事よやってるんでねえが。

「うそ八百の話」

- (14) したっきゃ、隣の部屋さ明がりっこアついでいるんでねえが。

「鬼婆と小坊主」

(13)、(14)に見られるように、テ（イ）ルンデネエガは、いずれも作中人物の眼前に起きている出来事を驚嘆的に述べる表現として用いられている。このようなテ（イ）ルの用いられ方から推察すると、本資料において、継続相のうち眼前描写性に特化しているというテラの出現回数が極端に少なかったのは、テラとは別に眼前描写性を表現するテ（イ）ルンデネエガが、テラの代わりを果たしていたためであるという解釈をすることもできる。

一方、テ（イ）ダは、竹田（2014）によると現在・過去の両方を表すことができるというが、本文で登場した文例は、いずれも過去の意味でのみ用いられているようであった。

- (15) その後、あまのじゃぐア、着物よ着て瓜子姫コに化げで、ギッコンバツタン、ギッコンバツタン機よ織っていだじ。

「瓜子姫コ」

- (16) その夜のごどだ。大漁よしした漁師の家よ、何人かが、こそつと見張っていだ。

「鶏に滅ぼされた村」

このように本資料においては、テ（イ）ルは現在の継続相、テ（イ）ダは過去の継続相というように共通語と一致する用法で使われていた。これは共通語の影響によるものなのか、あるいは地の文と呼ばれる叙述文独自の表現なのか、そしてテ（イ）ダが過去を表すのなら、テ（イ）ダッタあるいはテラッタとどのように使い分けられているのかなど様々な疑問がわいてくるが、残念ながら、本論ではその詳しい実態を明らかにすることができなかった。これらについても今後の研究課題としたい。

4.5. 継続相（敬体）

最後に、継続相の丁寧形「テオリアンス」、「テオリアンシタ」について考察する。

当資料には、「ておりあんす」、「ておりあんした」という表現がいくつか見られた。存在動詞「オル」自体は本来の東北方言には存在しないものだが、「テオル」に「です」「ます」に相当する丁寧形「アンス」が後続した「テオリアンス」「テオリアンシタ」は、継続相「テ（イ）ル」「テ（イ）ダ」の丁寧な形として定着しているものと考えることができる。

⁴² ぶんぐり＝元気の良い様

- (17) 今でもなす、ひとモッコと呼ばれる地名が残っていて、そごいらさば石ころが多くて、あの戦の名残だごったって言われておりあんすんだ。

「八の太郎」

- (18) 鮫⁴³の漁師んどァ、鯨よ、大漁の神様、恵比寿様ど、大事に祀っておりあんしたんだ。

「鯨の八戸太郎」

全体的な傾向として、本資料においては、「テオリアンス」は(17)のような物語世界で起きた出来事が現在にも何らかの形で影響力が持続していることを聞き手に伝えるとき、「テオリアンシタ」は(18)のような昔の継続的に行われていた慣習などを聞き手に付記的に伝えるときに多く登場する傾向があった。

今回は継続相のみの調査であったが、本資料では、このような明らかに聞き手を意識しているとみられる敬体表現がたびたび現れた。最初にも述べたとおり、本資料は単純に読み物としてだけでなく、実際に多くの人に語り聞かせることを想定して書かれている。したがって、本資料が非敬体表現を基調としながらも、「テオリアンス」「テオリアンシタ」といった敬体表現が随所で盛り込まれていたのも、物語の内容を一方的に述べるだけでなく、聞き手に語り伝えるために書かれているという本資料の特徴が、文法表現においても現れたからと解釈することができるだろう。

詳しく検証しようとするすると丁寧形「アンス」の用法の詳細な検討に踏み込むことになり、それは本論の域を越えるのでこれ以上の考察は控える。しかしながら、このような敬体／非敬体表現の混在は、一般的な三人称小説では見られにくい珍しい現象である。これが本資料に特有の特徴なのか、民話資料全体に現れる現象なのかは、更なる調査を必要とする。

5. 最後に

以上、八戸市方言で書かれた民話資料に現れたテンス・アスペクト表現について分析を試みた。大量のテキストデータを集計・分析することで、以下のことがわかった。

まず、民話資料に現れたテンス・アスペクトの使用文数を集計することで、それぞれのおおまかな使用頻度を明らかにした。民話資料はタ形を中心としながらも、場面に応じて様々な形態のテンス・アスペクト表現を使い分けており、それが物語に臨場感をもたらしているようである。また、テ（イ）ダッタ・テラッタについては両者の比較や用例の考察

⁴³ 鮫＝八戸市の地名

などを行うことで、その使い分けは先行研究と一致することを部分的に明らかにすることができた。現在データの整備が進んでいる COJADS や種々の資料と併用しながら分析すれば、方言の言語現象をより深く明らかにできる可能性がある。

一方で、民話資料におけるタ形やタツタ形などのふるまいは、日常会話のそれとは異なる様相を見せる。これは民話語りという特殊な状況が持つ、物語を過去の出来事として語りながら、その不可思議な出来事が本当にあったかのようなリアリティを含ませ、なおかつ物語世界と現実世界の間を容易に移動するなどといった独自の性質に大きく起因していると思われる。「方言で語られる民話は独自の趣がある」とは方言イベントにおける民話語りによく聞かれる感想だが、それはこうした「民話の文法」が影響している可能性もある。民話独自の言語表現を更に詳しく分析することで、民話の魅力、ひいては方言の魅力の再発見につながられていくことが期待できる。

なお、今回用いた民話資料は榎谷氏によって再話されたものであったが、本資料は榎谷氏自身の文体的特徴、つまり個人差が強く表れていた可能性もある。特に、榎谷氏は方言演劇の活動などにも長年取り組んできた経歴を有しているため、演劇的な要素も民話資料の文体に組み込まれていたということも考えられる。今回見られた結果が民話資料全体に言えることか、あるいは個人的特性かどうかを確かめるには、原話の文字化テキストや他の再話話者のテキストなどとの比較も行っていく必要がある。

最後になったが、冒頭でも述べた通り、方言の保存活動と民話の伝承活動は親和性が高く、今後も方言の保存活動において民話は重要な位置を占め続けることが予想される。方言のどのような表現が民話の語りに深みを与えているのかを分析・考察することは、方言の保存にも民話の伝承にも大きな貢献をもたらすことが期待される。しかし、方言の分析のために民話資料を用いるのではなく、民話資料「自体」の方言表現について詳しく分析する研究はまだ多くない。八戸市方言に限らず、全国に数多く存在する方言の民話について、言語的な考察がより深められていくことを、僭越ながら願っている。

調査文献

榎谷伸夫（2019）『南部昔コ語り部養成講座 第1回テキスト』

参考文献

小澤俊夫（1999）『昔話の語法』福音館書店

工藤真由美（1995）『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房

能田多代子（1982）『青森県五戸方言集』国書刊行会

竹田晃子（2020）『東北方言における述部文法形式』ひつじ書房

竹田晃子（2014）『岩手県盛岡市方言』方言文法研究会・編「全国方言文法辞典資料集(2)

要地方言の活用体系記述」 pp.33-44

津田智史（2013）『日本語方言アスペクトの研究』東北大学文学研究科博士論文

平山輝男・編（2003）『青森県の言葉 日本のことばシリーズ』明治書院

桙谷伸夫（2014）『南部昔コ集 第一集』アート＆コミュニティ

桙谷伸夫（2016）『南部昔コ集 第二集』アート＆コミュニティ

【付記】

本研究は、八戸市公民館館長の桙谷伸夫氏のご協力によって行うことができました。
資料を提供してくださった桙谷氏に感謝するとともに、長年に渡って方言や民話の保
存・伝承活動を続けられている氏に心から敬意を表します。

文法項目データ集

文法項目データ集

本データ集の内容

このデータ集は、以下の文法項目の調査結果をまとめたものです（以下、掲載順にリストします）。

なお、上記項目の調査には、国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」（人間文化研究機構・機関拠点型基幹研究プロジェクト）のために用意された調査票を使用しました。データは「翻訳用例文（日本語共通語）」と「八戸方言訳」とを併記する形で掲載しています。データによっては、必要に応じて「文脈」などの列が付け加えられている場合があります。

1. 文タイプ

ID	翻訳用例文	方言訳
1	俺のおやじは毎晩酒を飲む。	orano ojadziwa maibaN sakebari noNderu
2	俺のおやじは怖い。	wa:no oja~dza: okkaneNdajona
3	俺のおやじは昔は怖かった。	wano ojadzia mugasikara okkanakatta
4	俺のおやじは相変わらず元気だ。	orano oja~dza: ittsumo geNkidana
5	俺のおやじは昔は元気だったけど、 このごろ病気がちだ。	mugaea geNkidattakedo imaha φ!usedebaride jowatteeimattana
6	俺のおやじは医者だ。	wano ojadzia icada
7	俺のおやじは医者だった。	orano oja~dza icadattakena
8	君のお父さんは毎晩酒を飲むの？	Ngano ojadza: maibaN sage nomunoga
9	うわさで聞いたけど、君のお父さん は怖い？	uwasade kiitaNdakedo Ngano oja~dza: okkanenoga
10	君のお父さんは今は優しそうだけ ど、昔は怖かったの？	mugaea okkanagattanoga
11	君のお父さんは元気？	Ngano ojadzia geNkidado
12	お見舞いにいったそうだけど、君の お父さんは元気だった？	Ngano ojadzia geNkidattado
13	友達から聞いたんだけど、君のお父 さんは医者なの？	Ngano ojadzia icadado
		Ngano ojadzia icadanoga

14	友達から聞いたんだけど、君のお父さんは医者だったの？	Ngano ojadzia icadattado
		Ngano ojadzia icadattanoga
15	君のお父さんは毎晩酒を飲むでしょ？	omeno ojadza maibaN sake nomube
16	君のお父さんは酒は飲まないでしょ？	omeno ojadza maibaN sake nomanebe
17	君のお父さんが酒を飲むかどうか知らない。	ora antano ojadzi sake nomugado:ga wagaNne
18	君のお父さんが怖いかどうか知らない。	Ngano ojadza okkanega wagaNne
19	君のお父さんが元気かどうか知らない。	Ngano ojadzia geNkidaga wa: wagaNne
20	君のお父さんが医者かどうか知らない。	ica daga wa: wagaNne
21	一升瓶があるけど、誰が酒を飲むの？	ieeobiN arukedo kore dare nomuNdakkja
22	先生の中では誰が一番怖いの？	dorje^a umekcja
23	先生の中では誰が一番怖かったの？	dare iteiban meNkokattanojo
24	同級生の中で誰が一番元気なの？	doko^a iteibaN eizukadakkja

25	同級生の中で誰が一番元気だったの？	darega iteibaN geNkidattakkja
26	医者になった人がいると聞いたけど、誰が医者なの？	dare ica dakkja
27	この村で医者になった人がいたと聞いたけど、誰が医者だったの？	dare ica dattakja
28	俺は、おやじが何を飲むか知らない。	wa:no ojadza nani nomuga wagaNnedza
29	俺は、おやじが何を飲むか知っている。	wa:no ojadza nani nomuga wagattera
30	おやじは酒を飲むかなあ。	arja: umisa derubegana
31	おやじは酒を飲むんだっけかな。	(eo:ju) ireruNdattabeka
32	おやじは何を飲むかなあ。	nani nomube
33	おやじは何を飲むんだっけかなあ。	nani nondattabe
34	酒にうるさいおやじがこんなまずい酒を飲むだろうか。	
35	誰がこんなまずい酒を飲むだろうか。	
36	おい、ぐずぐずせずに早く飲め。 (兵隊の上官が部下たちに)	Nga teatteato nome:

37	お茶を入れたので、飲んでね。（訪ねてきた息子の友達に）	odza iredagara noNdekere
38	お茶を入れたのでどうぞお飲みください。（旅館の主人がお客さんに）	noNdekenebega
39	ここにきて一緒に酒を飲もうよ。	kotea kite sage nomube

2. 疑問詞

ID	翻訳用例文	方言訳
1	東京から誰が来るの？	to'kjo'kara dare kuruNdakkja
2	誰（複数）が来るの？	deNdo kuruNdakkja
3	--> 犬だろう	nani iruNdakkja → inuda~be
4	山の向こうには何があるの？	ano jamano mugo'nani arunoe
5	お前はどんな家に住みたいの？	Nga dottara esa sumiteNdakkja
6	お前はどの家に住んでるの？	
7	大きい家と小さい家，お前はどっちに住みたいの？	ome okiho'to tɛiseho'to dotɕi sumiteto omotteNdakkja
8	お前はどこに住んでるの？	Nga dogosa suNdekkja
9	その家，いくら／どれくらいなの？	naNbo ɕitanoe
10	その家，部屋はいくつあるの？	heja naNbo arunoe
11	なんでその家を買ったの？	naNɕini anoieba kattanojo
12	その家はいつ買ったの？	e: idzu kattaNdakkja
13	家を売ろうと思うんだけど，お前どう思う？	e: uritado omotteNdake~do ome do: omo:kkja
14	どうやってその家を見つけたの？	ome^a dojatte mikkete kitanoje
15	そんなに怒って，どうしたの？ --> 自転車盗まれたんだよ。	Nga nani okotteNdakkja → wa: dziteNɕa kapparaedaNdajo

16	明日お前何するの／どうするの？ --> 魚を釣りに行くよ。	aɕ!ita nani sukkja → saganatsurisa igu~be^a
17	誰か飲むか？	darega nomuga
18	(魚影などを見て) 何かいるぞ	naNka iru~do
19	何か要る？	naNka iru~do?
20	どっちかに行かないか (命令)	dotteigasa iganega
21	逃げたどろぼうは、この近くのどこかに いるはずだ。	kapparae~ga haitte kono henno dokkasa iruha~dzi~da
22	お金をいくらか持ってきた。	ora dzeni naNboga motterajo
23	くぎをいくつか持ってこい。	naNboka aru
24	あの人のことはなぜか好きになれない。	nanika wagaNnekedo
25	どうにかしないとだめだろう。	nantoka sene~ba dameda~be
26	いつかイギリスに行ってみたい。	idzuga i~girisa ittemitena

3. テンス、アスペクト

ID	翻訳用例文	方言訳
1	ケントが歩こうとしている、ちゃんと見ていろ。	kentoŋa {ũŋokutokode / arugutokoda}, tyanto midero.
2	お母さんがカレーの支度をするから、材料を持ってこい。	okka:ŋa kare:no syɔtaguo jarugara, zairio: motekoi.
3	木が倒れようとしている	k ^ɛ iŋa orirutokoda.
4	あの子どもは歩いているが、転ばなければいいけどな。	ano warassua arutteradomo, korobane heba ijana:.
5	お母さんがカレーを作っているから、行って見ろ。	okkaŋa kare:o tsugutterurasuke, idde miro.
6	木が倒れてくる。	k ^ɛ iŋa korondekuru.
7	カレーができてあるから、皿に盛って来い。	kare:a dekiterakara, sarasa motte koi.
8	木が倒れている	
9	大根が刻んである	{daikoŋa / deŋoŋa} k ^ɛ irasattera.
10	うさぎが歩いたんじゃないか。	usaŋiŋa aruitande ne:kana.
11	(味見したところ、お父さんの味付けだったので) 今日はお父さんがカレーをつくった	kɔrewa ojažiŋa tsukuttandabe.

12	雷さまが落ちた。	gorogorosama ozidana:.
13	(ハワイには) 行っているから、次は どこへ行くか。	itterasuke, tsugia dokosa igube.
14	{壊してしまった / 踏んでしまった}、 どうしよう。	{kowasyi ₁ temattada / fundemattada}, dojasube.
15	ご飯できたよ、食べないか。	messa degitajo, kanega.
16	庭に犬がいる	niwani waŋko 《ŋa》 iru.
17	あなたの意見は間違っていると思う	N.A.
18	馬に比べたら、車は速く走る。	mmagara ku ^a rabetara kuruma hajagu hasyirubee.
19	お父さんは大黒柱だから、いつもここ に座る。	ojaziwa daikokubasiradasuke, itsumo {kogoni iru / kogosa nimaru}.
20	今日は飲んでいないから、車で行く よ。	kio:wa nondeneasuke, kurumade igujo.
21	明日は私が行く	asia wa igu.
22	私は絶対に行かない	
23	明日も生活館に集まる。	asitamo se:katsuykanni atsumaru.
24	予定が終わったから行かない。	jote:ga owattakara igane.
25	曇ってきたから、明日は雨降るぞ。	kumotte k ^e itasuke, asita ame furude:.
26	こんな天気だから確実に雨は降らない	N.A.

27	棚の中にお菓子があるから、出してくれ。	tanano nagani okasyiŋa arusuke, dasyitekero.
28	探していたものがこんなところにあった	kogoni ida.
29	昔は結構山に遊びに行ったけど、最近 は膝が痛くなって行かなくなった。	mukasia kekko: jamasa asibini {ittakedo / ittadomo}, saikiĩwa ɛi nd za idakunatte ikanakunattad̪i̪a.
30	ご飯はさっきもう食べた	sakki mesyi kuttabena.
31	去年東京に行ってきた。	kʰonen to:kʰo:sa ittekʰitabe.
32	恐山にイタコがいるよ。	osorezansa idakkoa iruzya:.
33	今家にお母さんがいる	N.A.
34	花子はいつもきれいだ	tyotto meŋoina.
35	(いつもはそうではないが) 今日は花 子はきれいだ	jadara kʰirendana.
36	俺の昔の家は小さかったけど、天井は 煤けて真っ黒だった。	oreno mukasyino ija: tyakkedomo, tendzyowa susugede makkurodatta.
37	昨日の月はやたら大きかったな。	kʰino:no tsuŋia jadara okkikattana.
38	なんだか足腰が悪いから、家にいた。	nandaka asikosia waruisuke, ɛni ida.
39	あんなところにおじいさんがいた。	atta dokoni zysisama itad̪i̪a.
40	となりの犬は死んだ。	tonarino inua syindaddza:.

41	昨日ここで犬がはねられて、死んだんだよ。	k ^e inana kogode inua hanɛraretejo, sɪndandadʲa.
42	昔ここに殿様がいた。	mukasi kokosa tonosama itattazi:.
43	昨日はどこへも行っていない、家にいた。	k ^e ino dokosamo igane, eni idabe:.
44	あ、ノブオか、いやいや、俺の家に一緒にいたよ。	a, nobuɔka, ija ija, orahono isa iɛɛoni idabe:.
45	弘前の桜祭りは綺麗だ。	ɕirosagino sagura mazɪrʲa: kirendaze:.
46	(花を見ながら) この花はとてもきれいだ	o, kono hana k ^e irɛnda.
47	家康は頭がよかった	iejasia adama igattaza:.
48	昨日見た鯨神楽はなかなか良かった。	k ^e ino mida samekagura nakanaga igattandadʲa.
49	(部屋が荒らされているのを見て) 泥棒が入った	doro ⁿ bosa kamasarederana:.

4. ヴォイス

ID	翻訳用例文	方言訳
1	太郎は弟を遊ばせている。	taro: ha oto:to o asobasedeiru
2	太郎は弟を遊ばせている。	taro: ha oto:to o asobasedeiru
3	弟が行きたいというので、弟を／に行かせた。	oto:to ga ikitagune tte {iu / heru} node oto:to o mise ni ikaseta
	太郎は弟にテレビを見させた。	taro ha oto:to {ni / sa} terebi o misaseta
4	弟は行きたくないというが、弟を／に無理に行かせた。	oto:to ha igidagune: tte hettera kedomo oto:to o mise ni murini ikaseta / oto:to ha ikitagune tte {i^un / ju:n} domo oto:to o murini igaseta
5	弟を／に歩かせた	oto:to (o) murini arugaseta / oto:to ba murini arugaseta
6	こわがる弟に（*を）吊り橋を歩かせた。	okkanaŋaru odotto ni tsuribaēi ba arugaseta
7	体調の悪い妹のかわりに弟に／を行かせた。	karanda guŋe: (no) warui imo:to no kawari ni odotto ba isa sa ikaseta
8	太郎は野菜を腐らせた。	ano ɕito {e^I / jo} jasai ba kusaraseta nda jo {na: / ne}
9	太郎は爆弾を爆発させた。	ano ɕito e: bagudan ba baguatsu saseta nda tte
10	医者は誤って患者を死なせた。	asokono oicasan tesa matsugatte kandzasan ba sinaseda tte jo
11	ベーちゃんは先生に殴られた。	bi:tean ŋae sense: ni {ɸttaragareda nda tte / ɸttaragareda dzu} / be:tean sense: gara ɸttaragareda nda tte jo
12	ベーちゃんはみんなに愛されている。	minna ni m̥ɲkogararederu dzu jo / bi:tean wa {minna ni / minna ŋara} minŋogararederu jo
13	太郎はその知らせを先生に聞かされた。	（このような場合に受身は使わない）

	太郎は親に勉強させられている	oja ni na benkjo se: tte {iwarederu jo / eaberareta / hetteratta}
14	太郎は誰かに足を踏まれた。	ano çito wa darega ni asi o ðumareta {nda tte / zu}
15	太郎は誰かに財布を盗まれた。	saiðu ba nusumareda zu / ano çito a^e darega ni saiðu nusumareda zu jo
16	ベーちゃんは息子を褒められた。	be:tean no musuko o homerareta zu jo
17	席をとっていたのに、知らない人に座ら れた。	segi tottera no ni s!irane: çito ni suwarareda {dza / jo}
18	勉強していたのに、大きな音で楽器を弾 かれた。	benkjo sitera no ni okkidasune odo de gakki o higareda
19	この寺は 100 年前に建てられた。	kono odera wa çjagu nen mae ni taderare da z
20	?太郎は足が踏まれた。	açi ba ðumareda
21	太郎は財布が盗まれた。	saiðu ba nusumareda
22	壁に絵がかけられている。	e ga kagattearu / e ga kagattera:
23	太郎は父親に本を買ってもらった。	wataçiwa toteteaNni hoN{o / ba} kattemoratta.
24	太郎は弟に本を買ってきてもらった。	otottogara hoNba kattekitemoratta.
25	孫に本をやった	magoni hoNba kedajo.
26	先生に本をさしあげた	sense: {ni / sa} hoN{φ / ba} mottettekedajo.
27	友達に本をあげた	tomodateisa hoN kedajo.
28	孫が本をくれた	magokara hoN{φ / ba} morattajo.
29	先生が本をくださった	seNse:kara hoN moratta.
30	友達が本をくれた	tomodatei {kara~gara} hoN{φ / o} moratta.

31	(孫に対して) その本をくれ	sonohoN{φ / ba} keNda.
32	(先生に対して) その本をください	sonohoN{φ / ba} keNda.
33	(友達に対して) その本をくれ	sonohoN{φ / ba} {keNda / kero}.
34	孫から本をもらった	mago{kara / ni} hoN{φ / ba} morattajo.
35	先生から本をいただいた	sense:{kara~gara / ni} hoN{φ / ba} {morattajo / moraeita}.
36	友達から本をもらった	tomodatei{kara~gara / ni} hoN{φ / o} moratta.
37	孫に本を読んでやった	joNdekeda.
38	先生に本を読んでさしあげた	seNse:ni hoNo joNdekeda.
39	友達に本を読んであげた	tomodateini hoNo joNdekeda.
40	孫が本を読んでくれた	magoga hoNo joNdekeda.
41	先生が本を読んでくださった	seNse:ga hoNo joNdekedajo.
42	友達が本を読んでくれた	tomodateiga hoNo joNdekedajo.
43	(孫に対して) 本を読んでくれ	{joNde / joNdekeNda}.
44	(先生に対して) 本を読んでください	joNdekudasai.
45	(友達に対して) 本を読んでくれ	hoN joNdekeNda.
46	孫に本を読んでもらった	magokara hoN{φ / o / ba} joNdemoratta.
47	先生に本を読んでもらった	seNse:kara hoN{φ / o / ba} joNdemoratta.
48	友達に本を読んでもらった	tomodateigara hoN{φ / o / ba} joNdemoratta.
49	怖いからひとりで行けない	okkane suke çitori de {igene./ igerene} .

50	体が弱いので遠くまで行けない	zjo~bu de ne suke to:ku made {igene./ igerene} .
50'	孫はまだ一人で服が着られない。	mada çitoride kirenai
51	足が痛いので今日は行けない	æjaide suke kjo wa {igene./ igerene./ igarenai} .
52	雨が降っているので行けない	ame^a futteru suke {igene./ igerene./ igarenai} .
52'	この服はもう小さくなったので着られない。	mo: {kirene/kirarene} .
53	友達がいて心強いので、肝試しにも行ける	miNnade iru suke okkanagu ne suke kimodameei {igeru./ igareru} .
53'	孫はもう一人で服が着られる。	çitoride {kireru/kirareru/kiru} jo:ni natta.
54	よく知った場所なので一人で行ける	jogu oboeda bæo dasuke çitoride {igeru./ igareru} .
55	今日は体調がいいので行ける	kjo wa karadaN guai i:suke {igru./ igareru} .
56	今日は天気がいいので行ける	kjo: wa teNkja i:suke {igeru./ igareru} .
56'	(昔買った服を取り出して見て) この服はまだ着られる。	mada kirunii: jo.

57	昔は早く走ることができた。（でも今は早く走れない。）	mukaei hajagu haeiretaNdomo ima hajagu haeirene:jo
58	昔は早く走ることができなかった。（でも今は早く走れる。）	mukaei hajagu haeirenakattaNdomo ima daba hajagu haeirerujo
59	このペンはまだ書ける	kono peNwa mada {kageru/kakasaru} .
60	このペンはよく書ける	kono peNwa jogu {kageru/kakasaru} .
61	怖いので行くことができなかった	okkane suke {igenakatta/igarenakatta} .
62	歩くのが遅いので遠くまで行くことができなかった	aukuno osoi suke to:kumade {igenakatta/iganakatta/igarenakatta} .
63	体調が悪かったので行くことができなかった	guai warukatta suke {igenakatta/iganakatta/igerenakatta/iganaijo} .
64	天気が悪かったので行くことができなかった	teNkja warukatta suke {iganakatta/igenakatta/igarenakatta} .
65	歌ったら怖くなくなって、ひとりで行くことができた	ki~bi warui suke udainagara çitoride {itta/(igeta)}
66	歩くのが早いので遠くまで行くことができた	aruku na hajai suke to:ku made {igeta/igareta} .
66'	歩くのが早いので遠くまで来ることができた	aruku na hajai suke to:ku made {koreta/korareta/kita} .
67	体調がよかったので行くことができた	karada guai ikatta suke {igeta/igareta} .

68	天気がよかったので行くことができた	teNkja ikatta suke {igeta/igareta} .
68'	天気がよかったの来ることができた	tenkja ikatta suke korareta
65	止められていたがつい酒をのんでしまった	icani nomunatte eaberaedeattanmono tsuitsui sage{φ / ba} {nondesimatta / nomasatta}ndajona.
66	酒が飲みたいのにコップがなくて飲めない	sagea nomitendomo koppa: naΦute {nomene / nomerene / nomarene}.
67	酒を飲みたいがコップを探すのが億劫で飲めない	sagea nomite:nomo koppu sagasuna: mendokuse:gara {nomene / nomerene / nomarene}.
68	嫁がコップをもってきてくれて、やっと酒が飲めた	jomea: kopppu{φ / ba} mottekitekedasuke sagea: nomeda.
69	昨日は気分よく酒が飲めた	kinno:a kibunjogu sagea: {nomedanda / nomasattandajo}.
70	何故だかわからないがいつもより早くに起きてしまった	wagewaganendomosa ittsumojoka hajagu {ogidandajona / ogisattandajona}.
71	私は強い酒でも飲める	orae tsue: sagedemo {nomerundajo / nomererunda:}.
72	お父さんに叩かれた	totteni Φuttarakareda.
73	あの市長がお酒を飲まれた	a:nositeo:sanŋa sage nonderattajo.
74	校庭に大きな丸が書かれている<自発形式使用>	okkidasune marua kagasatterajo.
75	校庭に大きな丸が書いてある	okkidasune marua kagareterajo.
76	先生によって大きな丸が書かれた	sense:a okkidasune maru kaiderattakkja.

77	買う予定のお弁当に半額シールが貼られた	bento: kauni ittakkja haṇakuno ei:ru harasatterattajo.
78	私は上手に字を書ける	ora dzondzini dzi kagerundajo.
79	お父さんに叩かれた	totteni Φuttarakareda.
80	この本は英語で書かれている	konohona e:gode {kaiderajo / kagarederajo}.
81	この本は夏目漱石によって書かれた	konohoa: natsumeso:segi {dzi / tteheru}çito{φ / a} kaidadzijo.
82	水が飲みたい	mindzu {a / ba} nomite.
83	彼に来てほしい	anoçitoa {kitekerebai:na / konegana:}.
84	彼に来てもらいたい	anoçitogara kitemoraitendomona.
85	子供が手を洗っている	warasia: te arattera.
86	男たちが殴り合っている	odogondoa futtaragiatterra.

5. 形容詞述語文

ID	翻訳用例文	方言訳
1	今日は暑いね	kjo:[wa] nu[gu]igodo
2	太郎は優しい。	[taro:wa jasa:]ei:
3	次郎じゃなくて、太郎が優しいんだ	dziro:[dena]gu taro:[ŋa jasa:]Ndajo
4	今日はやけに太郎が優しいな。	kjo:[wa ja]dara[[ni taro:ŋa jasa:]go[do
5	太郎が優しかったらいいのになあ。	[ta]ro:[ŋa jasa:]gat[tara i:na:
6	(俺は) おなかが痛い	(orewa) ha[raŋa] {i[de]} / i[da]i}
7	太郎は優しいけど、次郎は冷たい。	ta[ro:wa jasa:]Ndomo, [dzi]ro:[wa {hoNdene]: / hoNdena]i}
8	太郎は暑い or 太郎は暑そうだ	[taro:wa] atsui taro:wa nu[gui]gottajo[:
9	(「暑い?」ときかれて) うん、暑	NN nu[gu]i(jo[:)
10	今日は昨日より暑い	kjo:[wa] ki[no]:jori {nu[gu]i / nugu[i]}
11	このところ、暑くなったねえ	[konoŋo]ro [nugugunatta](jo[:)
12	今日の暑さは耐えられない	kjo:[no nugumi[[wa] ga[man] degi[ne]:
13	(いつもは涼しいのに) 今日は暑い。	([i]tsumo[daba] su~[zusi]Ndomo) [kjo:wa] nugui
14	砂漠は暑い。	sabaku[wa] {atsu]i / azu]i}
15	この花はきれい{だ / な}	kono[hanakkowa ki]re:da
16	この人の髪は白々としている	konoŋono [kamiwa] maeei[ro]i

17	去年はいいこともわるいこともあった	kjoneN[[wa] i:[godo{mo/ŋa} attaNdomo] wa[ru]igodomo a]tta
18	去年はいいこともわるいこともあった	[kjoneNwa i]:godomo wa[ru]igodomo (rjo:ho:) [atta
19	大きな人も小さな人も、どちらも必要	okkidasi[ne]çtomo {teit[tea]i / teit[tee]]}çtomo dottei[mo çtsujo]:da
20	大きな人も小さな人も、どちらも必要	okkidasi[ne]çtomo {teit[tea]i / teit[tee]]}çtomo dottei[mo çtsujo]:da
21	(外に出たときに、予想外に暑いのに	[a] nugu]i
22a	水がほしい	mizu [ke]N[da]] [mi]zuba [ke]Nda
	新しい車がほしい	ataraei(:) [kuru]ma{ŋa/ba) ho[ei]:
22b	水が飲みたい	[mi]zu{ŋa/ba} {nomi[te]: / [no]mitai}
23	足が痛い／痛む	aeiŋa i[de]] / i[tamu]Ndomo

6. 名詞述語文

ID	翻訳用例文	方言形
1	明日は休みだ	aeta[wa] jasumi[da]
2	明日は休みだよ	aeta[wa] jasumi[da]dzujo[:
3	あ、雨だ	a a[me]da
4	雑巾だか手ぬぐいだかを持っている	dzo:kiN[dabe]ga tenunui[dabe]ga {o/ba} [mot]terajo[:
5	雑巾だかなんだかを持っている	dzo:kiN[dabe]ga naN[dabe]ga [mottera]jo[:
6	これがなにかわからない	kore na[:Nda]be wagaN[ne]]
7	私は先生だった	o[ra]wa [se]Nse(·)datta
8	ここは以前畑だった	kogo[wa ma]e ha[dage dat]tajo[:
9	私は先生でなかった	o[ra]wa [se]Nse[de {negatta/nagatta}]
10	ここは以前畑でなかった	kogo[[wa ma]e ha[dagede {ne]gat[ta/na]gat[ta}]
11	私は先生ではなかった	o[ra]wa [se]Nse[de ne]gatta
12	(注文の際に) じゃあ、おれはうなぎ。	N[dara] {o[re]/o[ra(l)]}wa {u[na]ni/u[na]ni}
13	私は男(女)だ	o[re]wa o[do]goda / o[ra]wa [o]naɲoda
14	この人は先生である人だ。	ko[noɕto][wa se]Nse:[dagot]tajo[:
15	(2 人の孫の写真を見せながら) 先生で ある孫はこっちで、牛飼いでる孫はこっ ち	[se]Nse[datta maɲowa] kotteide uekaino [maɲowa] kot]teidajo

16	私には車が2台ある／私は車を2台持っている	o[ra]niwa [kuruma]ŋa ni[dai a]rujo[: / o[ra]wa [kuruma][ba] nidai motteru
17	(駅のロータリーで) 今日はタクシーが いっぱいいるねえ	kjo:[wa] takei:[ŋa] zuppa[[ri] irugo[do]]
18	あそこに故障したタクシーがある。	asogo{[ni]/[sa]} koɕo:ɕ[ta] tak[ɕi:]da
19	あそこの広場に馬がいる	asogo[no] harap[pa{sa/ni} {u[ma/u[makko}ŋa i]ru
20	今日は家に孫がいる	kjo:[wa] e[sa maŋoŋa i]ru
21	(駅のロータリーで) 今日はタクシーが あまりいないねえ。	kjo:[wa] tak[ɕi:ŋa] [a]mari ine{[nasa]]/go[do]]}
22	あそこに故障したタクシーがあっただ う、もうないねえ。	asogo[sa] koware[da takei:ŋa atta]~do[mo] [ha nena]:
23	あそこの広場には馬がい	asogo[no] harap[pani]wa {u[ma/u[makko}ŋa i]ne
24	今日は家に孫がい	kjo:[wa] e{[ni]/[sa] maŋoŋa i]ne
25	弟は明日帰ってくる予定だ。	oto:to[[wa aeta kaettekuru] got[ta]jo[:

国立国語研究所共同研究

日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成

方言の記録と継承による地域文化の再構築

青森県八戸方言調査報告書

2021 年 3 月 30 日 発行

編集 中川奈津子・木部暢子

発行 国立国語研究所 言語変異研究領域

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2

TEL. 0570-08-8595 (ナビダイヤル)

<https://www.ninjal.ac.jp>

ISBN 978-4-910257-08-2 © 国立国語研究所 言語変異研究領域

NINJAL Collaborative Research Project Reports

Endangered Languages and Dialects in Japan
Research Report on Hachinohe Dialect

Edited by

NAKAGAWA Natsuko

KIBE Nobuko

March 2021

NATIONAL INSTITUTE FOR JAPANESE LANGUAGE AND LINGUISTICS